

インド系幼稚園

須藤 晃 伸 (春秋会)

経済や社会のグローバル化が進展する中、英語教育の早期化の必要性が説かれる時代となりました。昨今では公立小学校でも英語教育の低年齢化が進んでいると聞きます。

私自身は、学生時代に留学をしたいと思っていた口ですが、まともな就職ができるのだろうかなどと考えているうちに、留学の機会を逃してしまった経験があります。そんな自分自身の苦い(?)経験も踏まえ、子供をインド系幼稚園に入学させました。要するにインターナショナルスクールな訳ですが、欧米系ではないことを明確にすべく(そして多少のインパクトを狙って)インド系幼稚園という表題とさせていただきます。以下では、この幼稚園を I K (International Kindergartenの略)と呼ぶこととします。

■端緒

私には、二人の息子がいますが、長男は、ごくふつ~うの幼稚園に通わせました。次男も、長男と同じ幼稚園に通わせるつもりでしたが、その幼稚園が区画整理の地域にあたり、閉校されることとなってしまいました。次男のために幼稚園探しをしなくてはならない、さてどうしたものか。そこで目に付いたのが、自宅から徒歩数分のところにある I K でした。「自宅から最も近い!」それが I K の門戸をたたいた最初のきっかけでした。

入学の動機は不純でした。I K に話を聞きにいったとき次男は2歳でしたが、プリスクールクラスであれば直ぐにでも入学できるというではないですか。英語耳を持たせるには早い方がいいという気持ちもありましたが、2人の男の子の育児にやや疲れ気味の妻と私にとって最も魅力的であったのは、ただちに預けられるということ。こうして、次男は区画整理と親の不純な動機を主たる理由として、インド系幼稚園に通うことになったのです。後付けで、計画的に英語が公用語の幼稚園に入れたという話にして

もよかったのですが、しょせん長男はふつ~うの幼稚園卒であり、下手な嘘はつけないと思い、正直なところを書きました。

■公用語

公用語は英語です。したがって、先生と親との会話は原則英語となります。先生の中には日本人(但し、ネイティブ発音のバイリンガル)も若干いるので、英語の苦手な親は日本人の先生を捕まえることもできます。しかし、我が家を含む一部を除き、両親のすくなくとも一方が英語に堪能である家庭が多いように思います。連絡事項はもっぱら電子メールで配信されますが、英語に加え日本語で同じことが書かれているので、こちらは問題ありません。

■学年構成

次男が入学した I K は、ゴールドデン(年長)、シルバー(年中)、ダイヤモンド(年少)、ルビー(ダイヤモンドの1学年下)、プリスクール(ルビーの1学年下)のクラスから構成されます。全部で56人の幼稚園児がおり、うち約2割が外国人です(震災後、外国人の割合は下がったとのこと)。国籍は、アメリカ人、インド人、中国人、台湾人、スリランカ人、ロシア人と多様です。ルビー、プリスクールは、児童が日本語を喋っても叱られません、ダイヤモンド以上の学年では、英語で喋るように指導されるそうです。この結果、ゴールドデンの子供達はネイティブ同様の流暢英語で会話ができるようになるということです。

なお、I K には小学校も併設されています。半数程度の子は日本の小学校に進学し、3分の1程度が併設の小学校に進学するそうです。

■校風

校風は一言でいえば勉強は熱心、その他の行事はいいかげん、です。その他の行事がいい加減という

のは、日本の幼稚園と比べるとという意味で、先生方は精一杯やってくれていると思います。ただ、やはり決められたルールに従い一致して行動するのは国民性でしょうか、日本の幼稚園に分があります。例えば、運動会で行うダンス。日本の幼稚園の指導が見事であったことが、IKのそれを見て分かりました。でも校庭もないし、人種も多様なので、仕方ないですかね。

他方で、勉強の方は日本の幼稚園と比べはるかに先端的で、算数、コンピュータ教育などインド教育の特色が反映されています。算数では、できる子はどんどん進んだことをやらされ、幼稚園児でもかけ算まで勉強するそうです。コンピュータ教育は、年中クラスから全員が受講します。驚いたことに、幼稚園なのに留年制度があります。読み書きや算数ができない子は、下の学年に交じって勉強をしなくてはならないようです。できるものはとことん伸ばす、できないものは救わないという教育方針のようです。幸いにも、次男はルビーからダイヤモンドに進級することができました。次の学年に進級できるかは全く不明ですが…

■設備・学費

校舎は大きめの一軒家と一棟借りのビルディングです。校庭が無いので、体育は校舎内でのマット運動、屋上でのプール等のアクティビティに限られます。いわゆる無認可の保育園と同じような環境です。そのためでしょう、体操教室やプールなどに別途通っている子が多いと聞きます。

給食は、他の幼稚園も利用している会社に配達してもらっていますので、日本の幼稚園と同じです。

学費は一般的なインターナショナルスクールと比べると安い方だと思います。日本の私立大学(文系)程度といったところでしょうか。

■行事

学芸会、運動会があるのは日本の幼稚園と同じです。設備が無いので学芸会は公共のホールを借り、運動会は近くの小学校の校庭を借りてやります。これらの行事は日本の幼稚園とあまり変わりがありません。

特徴的な行事としては、例えば、ハロウィン、クリスマスパーティがあげられます。ハロウィンは本

格的です。仮装した子供たちが街中を歩きます。スパイダーマン、魔女、怪獣とバラエティ豊かです。そんな中、次男のリクエストはなぜか「亀」でした。亀の着ぐるみは売っていませんでしたので、緑の怪獣の着ぐるみからトサカを取り、紙皿をつなぎ合わせて甲羅を作りました。写真は亀になりご満悦の次男。



クリスマスパーティは、コンベンションセンターを借り、子供たちの家族も参加し、盛大に行われます。去年はNHK「英語であそぼ」に出演しているエリックさんがゲストとして参加されました。エリックさんのギター伴奏で親子揃ってクリスマスソングを歌いました。インターナショナルスクールならではのですね。

■英語教育の成果は？

入学から1年半。今のところ、次男から流暢な英語は出てきていません。ときおり日本語に英語の単語が交じります。ジェスチャーだけは一丁前。嘘は悪いですが、まるでルー大柴のようです。

少し前のことですが、家で "How are you today?" と次男に質問したところ、"I'm fine!" と力強く答えてきたので、続けざまに "How old are you?" と聞くと、またも "I'm fine!" との力強い答え。きっと今は少しはましになっているのでしょうか、果たして、彼は流暢な英語が喋れるようになるのだろうか？ 妻と二人で一抹の不安を感じています。

そんな私たちの思いとは裏腹に、長男が積極的に英語を勉強するようになりました。お兄ちゃんの僕が弟に英語を教える必要はないというのです。予想もしない副次的効果ですが、子供たちの教育という全体的観点からみれば、プラスの成果はあったといえそうです。

以上、とりとめのないことを書かせて頂きましたが、子供の英語教育に興味をお持ちの方にこの記事が少しでも参考になれば幸いです。

合 気 道

稲 葉 佳 之 (春秋会)

私の趣味は、ちょっと変わっています。実は、合気道をしております（現在は、少々中断しておりますが）。マイナーな武道なので、どんな武道なのかよくわからない方も多いと思いますので、この場を借りてちょっとご紹介します。

合気道は、「力を使わないこと（必要以上の腕力を使わないという意味です）」、「相手と争わないこと」が特徴の武道です。力を使わないので、体への負担が少ない武道です。そのため、定年後に合気道を始める方も多くいます。ちなみに、私が通っていた道場では、65歳から合気道を始めて有段者になった方がいました。

道場

私が以前通っていた道場は、とある地方の総数10人程度の小さな道場です。年齢層は幅広く、20代の方から80代の方まで一緒に稽古をしています。ちなみに、道場の師範は、84歳にして20代、30代の人と変わらず稽古をしています。力を使わない武道だからこそできることだと思っています。

また、技術が全ての武道ですので、稽古を積み、年齢を重ねるごとに上達します。このため、達人と呼ばれる方々は、高齢の方が多いです。いつの日か達人の域に到達したいと思っています。



(一番右が私です。)

稽古

合気道は相手と争わない武道なので、試合がありません。ひたすら稽古をします。試合がないことで物足りないという方もいますが、私にとっては、逆にそれが魅力になっています。他人のことを気にしなくてもよく、上手、下手に係らず自分のペースで稽古ができるからです。

稽古は、型稽古が基本となっていて、技をかける人と、技を受ける人が組になって、交互に技をかけたり受け身をとったりします。ちなみに、技をかけるよりも、受け身をとる方が疲れます。

合気道の技は、力を使わずに相手を投げたり押さえつけたりする技なので、技術が全てです。稽古は、日々試行錯誤です。また、技（型）以上に姿勢が重要でして、姿勢が悪いと全く技がかかりません。もちろん、平常心であることも重要です。つまり、心技体が重要なのです。

ここで、「力を使わずに相手を投げたり押さえつけたりする」点について、簡単にご説明します。人間、普通に立っている状態では、腕の力や脚の力を十分に発揮することができません。しかし、一端バランスを崩してしまうと、そうもいきません。例えば、道を歩いている時に何かにつまづいて「おっとっ」とバランスを崩してしまうと、思うように体が動かないと思います。合気道では、相手のバランスを崩して、相手に力を使わせない状態にすることで、自分は力を使わずに相手を投げたり、押さえつけたりしています。この「相手のバランスを崩す」ためにどうするかといいますと、相手が自分に向かってくる時の勢いや相手の腕力を利用します。

さらっと書いてしまいましたが、実際にやってみると難しくなかなか実現できません。

剣・杖

一般には、あまり知られていませんが、合気道には、剣や杖といった武器を使った稽古もあります。

剣の稽古では、組太刀といいまして、撃ち手（攻撃する側の人）と仕手（防御しつつ、反撃する側の人）の両者が木刀を持って立ち会い、仕手が、斬りかかる撃ち手の攻撃を避けつつ、反撃するとう型稽古を行います。基本的に寸止めですが、防具を身につけないので、稽古は緊張感に溢れます。

また、剣の稽古では、撃ち手のみが剣を使い、仕手は素手で反撃するという稽古もあります。この稽古では、仕手は、斬りかかる撃ち手の剣をかわして、撃ち手を投げ飛ばしたり、押さえつけたりします。

杖（イメージ的には、杖よりも槍に近いです）を使った稽古も、剣の稽古と同様です。撃ち手と仕手の両方が杖を持ち、立ち会う稽古や、杖を持つ撃ち手を、仕手が素手で倒すといった稽古です。

技

合気道の技には、大きく分けて固め技と投げ技の2種類があります。固め技とは、間接技のように、相手を押さえつける技であり、投げ技とは文字通り、相手を投げ飛ばす技です。せっかくですので、これらの固め技と投げ技について、それぞれ少々ご紹介します。

小手返し（二教）

最初に、小手返し（二教）という技をご紹介します。今回は、相手に左腕を掴まれた場合について説明します。ちなみに、この場合では、相手が左手を使って、自分の左腕を掴んでいる場合を想定しています。

- (1) まず、次の図に示すように、自分の右手を、相手の左手（自分の腕を掴んでいる手）を上にかぶせます。
- (2) 次に、自分の左手の平をピンと張って、手刀を作ります。
- (3) 次に、この手刀を、親指の方向に向かって回転させます。
- (4) 中指が上を向いたら一端止めて、相手の左腕（手首の周囲）を、手刀の小指で切るように振

り下ろします。

下の図は、技が完成した状態を示しています。

本来、間接技ではありませんが、結構痛いのです。合気道を始めた当初は、よくこの技で手首を傷めたものです。護身術として使いやすい技なので、「いざ」というときにお試しください。



小手返し

次に、「小手返し」という投げ技をご紹介します。

- (1) まず、相手の右手の甲を、自分の左手で掴みます。このときのポイントは、下の図に示すように、
 - ① 自分の親指を相手の小指の付け根に当てること
 - ② 自分の小指を相手の手首に引っ掛けるように絡ませること
- (2) さらに自分の左手の上に、自分の右手を重ね合わせて、相手の指先を地面に向かって押し込むように回転させます。

なお、相手の左手に技をかけるときは、上記の関係は逆になります。

この技も本来、間接技ではありませんが、結構痛いのです。この技が決まりますと、手首を軸にして回転するように投げ飛ばされます。



スティーブン・セガール

ハリウッドスターのスティーブン・セガール、彼は、合気道の7段の達人です。彼の映画には、合気道の技がふんだんに使われています。例えば、上記の小手返しがよく使われています。多少の興味をお持ちになられましたら、是非、彼の映画をご覧ください。ちなみに、お薦めは、「沈黙の戦艦」です。

以上

弁理士と生け花

工 藤 由里子 (春秋会)

1. 事の発端

弁理士の先生方は「生け花」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべるのでしょうか？

外国のお客様や外国の代理人と接する機会の多い先生は、Ikebanaとflower arrangementとの違いを聞かれたご経験があるかも知れません。

それでは、もし、「生け花と弁理士ってどういう関係があるの？」と聞かれたらどう答えますか？

色々答えはあるかと思いますが、最も説得力のあるような答えの1つは、「種苗法」を理由にした答えではないでしょうか。生け花の材料は植物です。そして、植物の品種を保護するのが種苗法です。知的財産基本法第2条には、「この法律で『知的財産』とは、発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物その他の人間の創造的活動により生み出されるもの（以下略）」と記載されており、「知的財産」に最も深い関わりを持つ職業の1つが弁理士です。知的財産を守ることが弁理士の使命であるならば、植物の品種を守ることも弁理士が取り組むべき仕事です。現在、種苗法に関する業務でご活躍されている弁理士の先生もいらっしゃいますので、「弁理士は、植物の品種の保護を通して生け花を保護している。」と言えるのかも知れません。

残念なことに、種苗法の品種登録代理業務は弁理士の標榜業務とはなっていません。しかし、知的財産である以上、弁理士たるもの関心を寄せないわけにはいきません。とは言っても、普段生活をしていて、植物に積極的に接する機会というのはなかなか無いもので、「品種」を保護する、と言われてもピンときませんでした。種苗法に興味はあっても、植物の品種や生産、流通事情について全く知識が無い状態では、種苗法を学んでも理解が浅いものになってしまいます。そこで、種苗法を学ぶに先立って、まずは植物に接触する機会を増やしてみよう、と思ひ立ち、生け花を習うことにしました。

2. 生け花の定義

生け花というと、花嫁修業というイメージが浮かぶ方もいらっしゃるのではないのでしょうか。花嫁修業として挙げられるお稽古として、生け花の他に茶道があります。茶道は、「おもてなしの心」と言われるように、対人関係における心のあり方を修行するものです。では、生け花では何を修業するのでしょうか？

その話を進める前に、そもそも生け花とは一体何をやるものなのでしょうか。

「生け花って、花を摘んでくるか買ってくるかして、適当な長さに切って、花瓶に入れるのでしょ？」

はい。その通りです。その通りなのですが、それではクレームが広すぎてflower arrangement等も含まれてしまいます。「花を摘んでくるか買ってくるかして、適当な長さに切って、」までがプリアンプルで、「花瓶に入れる」ところが特徴部分なのです。そして、どのように花瓶に入れるかというところに、生け花とflower arrangementとの相違点が存在するのです。

下の写真をご覧ください。



これは、お稽古のときに生けた作品です。細長い緑の植物（トクサと言う植物です）が大きなV字形を作っていて、右下には、中心から外方に延びる花（トルコキキョウ）が見えます。V字をなす直線と、

右に延びる直線と、この3つの直線によって1つの空間を形成しています。正面から見てみると分かりにくいのですが、上から見ると、トクサとトルコキキョウはそれぞれ前に傾いていますので、実物を見ると、3つの線が、多面体の空間を作っているのです。この「空間を作る」ということこそが生け花の本質なのです。

3. 空間を作る

生け花では、色々な植物を使って、様々に配置することで、多様な空間を作ることができます。下の写真をご覧ください。



先程と同じく3本の線で空間を作っているのが見えるでしょうか。空間を作る3本の線の向きは、先程の写真のものとはほぼ同じです。ですから、作られている空間の形は先程の作品と同じなのですが、植物の種類や数、植物を入れる花器を変えると、雰囲気随分と変わります。1枚目の作品は楚々とした雰囲気、2枚目の作品は華やかな雰囲気ではないでしょうか。上の2枚の写真では、違う植物を使って同じ形を作っていますが、逆に、同じ植物を使って、線の長さや配置を変えて空間の形を変えると、やはり全く違う空間を作ることができるのです。このように、例えば、作品を置く場所に合わせ、あるいは自分の表現したい気持ちに合わせて、華やいだ雰囲気や、落ち着いた雰囲気等の所望の雰囲気を有する空間を自在に作れることが生け花の特徴であり、魅力なのです。これに対して、flower arrangementでは、「空間を形成する」ということはあまり意識されません。ですから、flower arrangementでも、空間を意識した配置にすると「生け花っぽい」

アレンジにすることができるのです。

4. 分解と再構成

所望の雰囲気を有する空間を作るためには、自然の状態そのままの植物を使うよりも、自然にある植物を分解して使ったほうがよいのです。例えば、3本つながっている茎を1本ずつに分解したり、葉っぱを何枚か取り除いて数を減らしたりして、植物を分解することによって、配置の選択肢が広がるので、より自由に空間を構成することができるのです。つまり、生け花とは、植物を分解して再構成し、所望の雰囲気を有する空間を作り出す方法なのです。

ところで、元からあるものを分解して再構成するという作業、身近な作業で心当たりはないでしょうか？

特に機械がご専門の先生方は、クレームドラフティングのときに、「分解と再構成」という作業をされているのではないのでしょうか。先ず発明品である機械を構成要素に分解し、次に特徴部分に関連する要素とそれ以外の要素とに分け、最後に特徴部分に関連する要素のみを使って、発明の構成と作用が明確となるように各構成要素を組み立ててクレームにする、という手順を踏んでいるのではないのでしょうか。分解・再構成してクレームを作る手法を身に付けるにはある程度の訓練が必要です。同じように、生け花も、誰もがすぐにできるものではなく、お稽古を重ねることが必要なのです。

さて、ここで、花嫁修業の話に戻ります。

家庭生活で「分解と再構成」が必要となる作業は何だと思いますか？一番近いのは、整理整頓でしょうか。整理整頓の最終目的が、「すっきりとした空間を形成すること」であるという意味でも、整理整頓は生け花に通じるものがあります。実は、生け花を始めてから、「机の上がすっきりしているね」とお声をかけていただくようになりました。種苗法に精通するという最終的な課題はまだ解決されていませんが、生け花のお稽古をすることによって整理整頓能力が向上するという当事者が予測できない効果が得られています。

今後、積極的に種苗法を勉強していきたいと思っていますので、どうぞご指導いただきますようお願い申し上げます。

ハンググライダーに魅せられて

津田英直（春秋会）

1. ハンググライダーとは

ハンググライダーとは、人類の夢である「飛行」を最も原始的にかなえてくれるスポーツだと思えます。アルミニウム合金のフレームと、合成繊維の三角翼から構成されるグライダーに、寝袋状のハーネスという装備を介して人が吊り下がって操縦することから、ハンググライダーと呼ばれています（注：ハングライダーではありません）。ハンググライダーには動力はついておらず、うつ伏せにつながれたフライヤーは、三角翼の中央部から下側に伸びた三角形のコントロールバーに対して体重移動をすることで、ハンググライダーを操作することができます。ハンググライダーは、ライト兄弟の動力飛行よりも10年以上前にドイツ人のオットー・リリエンタールが発明したグライダーにかなり近い形をしています。余談ですが、リリエンタールは、自身が発明したグライダーで二千回もの飛行を成功させて、特許も取得していたそうです。その後、1950年代に、フランス・ロガロ博士が、宇宙船カプセル回収用に発明したデルタ型の「ロガロウイング」が、現在のハンググライダーの原型になっており、1970年代にスポーツとしてのハンググライダーが誕生しました。

2. ハンググライダーの魅力

多くの方は、ハンググライダーは、山から飛んで、そのまますぐに着陸場に降りるものと考えているようですが、実際は異なります。ハンググライダーの醍醐味は、上昇気流に乗ることにあります。晴れた日にトンビが輪を描いて飛んでいるところを見たことがあると思いますが、これはトンビが、サーマル（熱上昇気流）に乗って高度を上げているところなのです。ハンググライダーは、トンビと同様にサーマル内で円を描くように飛ぶことで、積雲の底まで

上昇することができ、入ろうと思えば雲の中にも入れます（危険ですが…）。上手になれば、コンディションに依りますが、1000～2000mほど上昇することができ、数時間のフライトを楽しむことができます。動力を持たないグライダーで、2000mまで上がり、眼下に広がる光景を見たときの感動は、筆舌しがたいものであります。しかし、上昇気流を掴むためには、熟練した操作技術が必要になり、またサーマルの発生を予測する知識と経験が必要となります。同じ日に飛んだとしても、腕次第で、5分で降りてしまう人もいれば、2時間のフライトを楽しめる人もおり、非常に奥の深いスポーツといえ、それがまたフライヤーを魅了する一因であると思います。

休日にハンググライダーを行っているエリアには、学生から会社を定年退職された方まで、老若男女問わず多くの方がハンググライダーを楽しみに集まってきます。会社という枠を外れて、このように多く



の世代の方と、共通の趣味で語り合うことができることや、長く続けることができる趣味として取り組みことができるのもハンググライダーの魅力の一つだと思います。

そして、私がハンググライダーの最大の魅力と考えるものに、クロスカントリーフライトというものがあります。クロスカントリーフライトとは、その名の通り、野を越え山を越えて飛ぶことであり、普段飛んでいる飛行空域を離れ、できるだけ遠く

へ飛ぶフライトです。普段飛びなれている飛行空域を離れることには不安もありますが、それを越える楽しさと、達成感が得られる冒険になります。

クロスカントリーを行うには、コンディションがよく、かつ着陸場が確保できることが必須であり、日本では、3月～4月の田んぼの水が入るまでの短い季節に限定されてしまいますが、この季節になると、全国各地で記録を目指してクロスカントリーフライトが行われます。なお、現在の日本記録は、なんと213キロであり、岡山県大佐山から琵琶湖のほとりまでという信じられないくらいの長い距離を一度のフライトで飛んでいます。

3. 競技としてのハンググライダー

ハンググライダーの競技には、滞空時間を競うものから、パイロンレースまで、いくつかの競技がありますが、最も一般的な競技はパイロンレースとなります。パイロンレースは、予め決められた目標点（パイロン）を辿り、ゴールを目指す競技であり、日本では50km～100kmほどのタスクが組まれて競技が行われています。タスクをこなしたか否かの判定は、昔は上空からとった写真を使って行っていたのですが、現在ではGPSを用いて判定が行われています。

私は、学生時代はよく大会にも出ていましたが、最近はめっきり遠ざかっていたところ、知り合いに誘われて、去年、久しぶりに広島で行われた大会に



参加してきました。結果はあまり芳しくありませんでしたが、もっとうまくなりたいというモチベーションに繋がり、よい経験となりました。

4. 今後の目標

学生時代にハンググライダーに出会い、週末の度に飛びにいていきましたが、就職、弁理士試験受験のため、しばらくの間、思うように飛べていませんでした（雑念があったため、なかなか合格できませんでした…。) やっと試験も終わり、ハンググライダーを行う時間も増えています。昔に比べて体力・技術ともに落ちているので、無理をしない、安全第一で、長く続けていきたいと考えています。そしてもう少し上達したら、100kmオーバーのクロスカントリーフライトや、海外でのフライトを行いたいと考えています。

5. 最後に

なかなか始めるきっかけがないスポーツであるとは思いますが、教員と二人で飛ぶタンDEM体験などもあり、気軽に体験することができます。興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、インターネットで「ハンググライダー 体験」を検索すれば全国各地のショップが見つかると思います。一人でも多くの方にハンググライダーというスポーツを体験して頂けたら幸いに存じます。

日本と中国の比較あれこれ！？

窪田 稚之 (稲門弁理士クラブ)

はじめに

私の周りでは、最近中国に仕事で出張や駐在になる友人が増えています。中国は、今やGDP (Gross Domestic Product、国内総生産) で日本を抜き、仕事の上では、最も重要な国の1つになっているからでしょう。そうした友人達と「日本と中国の違い」について話しをしていると、面白い発見が数多くあります。

尖閣諸島問題や中国版新幹線の事故等、少し物騒な話題が関心を集めてきましたが、ここでは普通の生活に身近な「日本と中国の違い」について、幾つかご紹介させていただきます。

日本と中国の正月の迎え方の違いについて

日本と中国では、正月 (旧暦の1月1日を春節といい、実際の時期は2011年の場合、2月3日) の迎え方に違いがあります。両国の違いを簡単に言うと、日本は「どちらかと言うと、静かに正月を迎える」のに対して、中国は「賑やかに正月を迎える」と言えます。

日本では、「カウントダウンコンサート」等は別として、「ゆく年くる年」を見たりしながら、除夜の鐘を聞いたり、二年参りをしたり、といった厳かなものが一般的ではないでしょうか。一方、中国では、花火や爆竹が鳴り響き、中にはフライングして鳴り始めるので、非常に賑やかな正月を迎えることが多いようです。

正月前後の食べ物について、日本では大晦日の夜に「年越しそば」を食べるのが一般的ですが、中国の南部の地域では、大晦日の夜 (2011年の場合、2月2日) に魚を食べ、余らせるという風習があるそうです。これは、「魚 (yu) と「余 (yu)」の発音が同じであり、翌年は金銭的に余る (余裕がある) ことを祈願した風習といわれています。

また、年が明けて子供にあげる「お年玉」について、

日本では常識的な金額が多いようですが、中国では一人っ子政策のお陰もあり、お年玉の金額は上昇の一途を辿り、中には一般サラリーマンの月給を超える額を貰う、というツワモノも居るそうです。さらに中国らしいのは、政府高官の子供相手の場合、お年玉のお金が賄賂の代わりになっているという裏事情もあるようです。

さて、簡単に両国の正月の迎え方の違いを紹介しましたが、どちらの国でも家族や親戚同士で顔を合わせ、良い一年を迎えたい、という気持ちは共通しているようです。

日本と中国の結婚観と夫婦生活の違いについて

日本では、女性が男性を選ぶ条件として、3高 (背が高い、学歴が高い、収入が高い) がバブルの頃は挙げられ、最近では3K (価値観が合う、常識的な金銭感覚、雇用形態の安定) が挙げられているようです。

中国では、日本のバブル期を彷彿させるような、5C (Cash or Credit Card (現金やクレジットカードを所有)、Condominium (いわゆるマンションを所有)、Car (車を所有)、Country club membership (いわゆるゴルフクラブの会員権を所有)、Career (経歴)) が、男性を選ぶ条件として挙げられているようです。特にマンションと車は、結婚への必須条件といわれ、親からの援助や借金までして、手に入れる男性が、都市部では多いと聞いています。中国の女性は超現実的で、男性の性格的な面よりも、経済的な面を重視しているようですね (苦笑)。一方、中国の3高の女性は、なかなか結婚出来ない、という現実もあるようです。これは、女性の結婚の適齢期が日本よりも短く (20代の後半位まで)、「男性は女性よりも何でも優れている方が良い」と思う男性が、日本よりも多いことが原因のようです。

さて、めでたく結婚しても、日本と中国ではかな

り事情が異なります。

中国では共働きが一般的なため、男性も家事を担当する必要があります。特に料理については、男性が担当することが多いようです。中国のドラマや映画等で、男性が料理をするシーンを見かけますが、決して珍しいものではなく、ごくごく普通の光景のようです。背景には、中華料理の調理器具は重いいため、男性の方が上手に料理を作れるという説や、「一人っ子政策」のため、男性でもある程度大人になった場合、いつまでも親に頼るのではなく、自炊くらい出来て当たり前という説等、諸説あるようです。

一方で、共働きをサポートする制度として、ベビーシッターが挙げられます。中国では、ベビーシッターの利用が多く、ある程度の所得のある家庭では、住み込みのベビーシッターが居ることも多いようです。ベビーシッターを担当する女性は、地方からの出稼ぎの女性が多いと聞いています。

さて、子供がある程度大きくなってくると、次は幼稚園等の学校の心配をしなくてはなりません。ここで驚くのが、中国の都市部では全寮制の幼稚園が決して珍しいものではない、ということです。共働きのニーズや、「一人っ子政策」を踏まえ、小さいときからエリート教育をさせたい等、理由は様々ですが、平日は全寮制の幼稚園で過ごし、週末だけ家族と過ごす園児が居るそうです。最初は親も心配しますが、そこは子供の適応力で何とかなってしまうようです。また、子供に対する教育熱心さは、一昔前の日本に似ており、経済成長著しい環境下、少しでも良い大学に行き、稼ぎの良い職業に就くことは庶民の憧れのようにです。

日本と中国の女性の服装について

中国では、一般的に日本のファッション誌は人気があり、多くの女性が自分の服装のお手本にしているようです。最近でも、「トウキョウ・パンダ」というハンドルネームの日本人女性のブログが、中国人女性の間で人気があり、自身の服装の参考にしている、という記事を見かけました。

一方で、服装に関して、日本よりも欧米を手本にしている女性も増えているようです。特にスタイルの良い女性が多いといわれている上海等の都市部では、日本よりも欧米志向が強いです。

欧米志向の高まりの一例として、結婚式に着るド

レスの色が挙げられます。伝統的に中国の結婚式では、赤いドレスの人気がありますが、最近では欧米式の白いドレスも人気があります。もともと「赤」は縁起が良く、正月などは赤い下着を身につける風習がありました。一方で「白」の服装は、伝統的には葬儀に着る服装のようです。流行に敏感な女性の間では、伝統さえも過去のものになりつつあるようです。

日本と中国における、イベント時の贈り物について

最後にイベント時にどんな贈り物をするのか、日中を比較してみましょう。

バレンタインといえば、日本では数少ない!?!「女性が男性にプレゼント（主にチョコレートでしょうか）を渡す日」ですが、中国では「男性が女性にプレゼントを渡す日」のようです。ここでも、中国の男性が唄われます（笑）。プレゼントの内容は、花束（特に赤いバラ）が人気ようです。プレゼントを渡す方法も面白く、職場に花束を送る方法が、珍しくないと聞いています。ですから、バレンタインの当日に花束を貰えない独身女性は、少し肩身の狭い思いをすることもあるようです。

誕生日のプレゼントは、どうでしょうか。もちろん、誕生日の当人が周りの友人や同僚からプレゼントを貰えますが、その当人が周りの友人達に食事やケーキ等をご馳走する点がユニークです。「自分が年を取れたのは皆様のお陰、と感謝する気持ちを形にする」点が、いかにも中国らしい習慣といえます。

また、端午の節句（いわゆる子供の日）には、家庭で粽（ちまき）を作り、家族で仲良く食べる、という微笑ましい習慣もあるようです。粽には栗や小豆を加えたり、アワビやチャーシューを加えたりするものもある、と聞いています。「家族の絆を大切に」といわれる、中国の一端を垣間見た気がします。

おわりに

最近では欧米各国で高級ブランドショップに入ると、「ニイハオ!」と声を掛けられることが多いと聞きます。1980年代後半のバブル期には、「こんにちは!」と声を掛けられたのと比較すると、時代の流れを実感します。今後も中国の勢いはまだまだ続きそうですが、隣の国の一員として、お互いの違いを乗り越えて仲良く付き合いたいものです。

出願業務において心掛けていること ～技術契約の経験を通じて～

清水 貴 光 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

私は、特許事務所に入所する以前に、メーカーの知財部で技術契約に関する業務に携わり、主に契約書作成、契約交渉をしていました。ここでは、技術契約業務に携わった経験から、日頃の特許出願業務において心掛けていることをお話させて頂きたいと思います。諸先輩方と比べるとまだまだ駆け出しの新米弁理士ですが、新米なりに志を持って理想を追求している姿を温かく見守って頂ければ幸いです。

2. 技術契約について

まず、技術契約とは、その明確な定義はありませんが、特許ライセンス契約、ソフトウェアライセンス契約等のライセンス契約、共同開発契約や開発委託契約等の知的成果物が生じることが想定されてその知的成果物の帰属や取り扱いを第三者との間で予め決めておく契約、および、営業秘密や技術情報の授受に関する秘密保持契約等を指すものとして一般的に用いられています。

技術契約の契約書を作成するにあたって、最も苦勞することは「正確性」の追求です。ここでいう「正確性」とは、文言の意味を一義的に確定させるだけでなく、ライセンスや授受の対象となる対象物を正確に特定すること、および、契約書の内容を取引実情に合致した内容にする等、事象を正確に把握してそれを文書で書ききることです。

弁理士という職業上、そんなことは至極当然のことではないかと矢継ぎ早に皆さんのツッコミが入りそうですが、意外とこれが難しいのです。例えば、秘密情報を授受するにあたり秘密保持契約を締結する場合であれば、どういった媒体で開示するのか(電子データなのか、紙なのか)、口頭で開示された秘密情報をどう取り扱うのか、受領者は受領した秘密

情報をどのように管理するか等、受領当事者は、守秘義務を極力少なくするために、また、開示当事者は、秘密情報の秘密性を担保するとともに不要な開示義務を負わないために、契約締結時点であらゆる事象を想定して契約書で規定することは意外と難しいのです。

3. 出願業務において心掛けていること

技術契約に関する契約書作成の経験や苦勞から、知的財産は、創造、保護、活用のサイクルに乗って出願人の利益に貢献するものであり、このサイクルのうち、最も知的財産の価値が顕在化するの、知的財産の活用の場面であることを体感しました。ここでは、特許権の活用の前段階である発明の保護(権利化)に携わる、特許事務所勤務する弁理士として、日々の出願業務で心掛けていることを3点ほどご紹介させていただきます。

(1) 出願人の意図するものを過不足なく記載する

主に出願代理を業として行う弁理士であっても、特許とはライセンスや権利行使してなんぼのものである点は常に意識していることだと思います(もちろん、他社の権利取得を妨げる防衛出願や自己実施確保のための保護に重点を置く出願もそれら自体の意義はありますが、ここでは脇に置いておきます)。

では、特許を活用するときには、誰がイニシアチブを握って交渉に臨んだり、権利侵害の摘発を行うのでしょうか。それは、当然、特許権者です。

それでは、弁理士が依頼者の意図する発明を盛り込んでいない場合、出願人が特許発明のライセンス交渉を進めようとするときに、そもそも本末転倒で使いものにならないということにもなりかねません。一方、弁理士が自らの知見に基づいて様々な事項を盛り込んで過度に広範囲のクレームを案出した場合、

出願人が依頼内容にない技術内容が盛り込まれていることについて自覚がないと、仮に、そのような権利を習得できても特許権者は自らが認識していない技術内容を活用することはできませんので、自らの意図する発明以外の部分については休眠してしまうのが関の山でしょう。

したがって、出願人が主体的に特許を活用することを考えると、弁理士は技術内容の肉付けや論理の強化は行っても、必要以上に技術情報を新たに盛り込んだり落としてしまうことは適切ではない、すなわち、出願人の意図する発明を過不足なく明細書に記載することがベストだと考えています。

(2) 特許用語も必要に応じて用いる

では、出願人の意図する内容を過不足なく記載する際に、記載内容にメリハリを付けて発明の特徴的部分を浮き上がらせることが必要です。ここで、諸先輩方の功績である特許用語の出番です。

確かに、明細書が読みづらく近寄り難いと言われる理由の一つに特許用語が挙げられます。また、全ての特許用語が一般的に用いられる言葉ではありません。

しかしながら、特許用語を平易な言葉で置き換える場合には、総じて冗長な文書になり、特にクレームにおいては、かえって発明の特徴的部分が曖昧になると私は考えています。発明の特徴的部分が曖昧になると、結局は権利解釈で疑義が生じ、思うように特許を活用できない場面が出てくるのではないのでしょうか。

ですから、私は、難読と言われる特許用語であっても適宜使用しています。もちろん、上記(1)で書いたとおり、出願人の意図する内容を踏まえて文言を取捨選択したことを説明する責任を果たしますが、説明責任と特許用語を用いる実用的利便性は切り離して考えています。

(3) 出願件数について

出願件数は、出願人の年次予算によって逆算的に決まるケースもあるでしょうが、私は、出願人が出願件数を絞ることは好ましいことではないと考えています。将来活用する特許が事前に分かっていたら資源を集中して出願件数を絞ることも可能ですが、出願時点でそのような予測を立てることは難しく、

過度な出願数の縮小は、特許の活用機会を逸することになるためです。

本稿を執筆している2011年8月3日は、サッカーW杯ブラジル大会三次予選の日本対北朝鮮戦の翌日です。試合は、日本代表DF吉田麻也選手が後半ロスタイムに劇的決勝ゴールを決めて日本代表が辛勝しました。試合後のインタビューで、アルベルト・ザッケローニ日本代表監督は「一滴一滴が海となる」というイタリアの格言を引用して、継続的に攻撃を仕掛けた日本代表の奮闘を讃えました。特許戦略も一発勝負では思い通りの結果は得られません。影響力の大きい特許を狙って取りに行くよりは、多数の改良発明で特許網を形成した方が影響が大きいことがあります。

また、特許権のライセンスではありませんが、特許網の影響力を示すものとして、例えば、125億ドルという多額の買収額で話題になった、GoogleのMotorola Mobility (MM) 買収が挙げられます。Googleの買収目的の一つは、MMが保有する特許を取得することとされています。MMは、17,000件の特許と7,000件の特許出願とからなる特許網を有していましたが、通信業界において特に影響が大きいとされる有力特許は、このうち18件だそうです。つまり、MMは、有力特許を得るために、多数の特許権と特許出願を行ってきたのです。このようにMMの膨大な特許網と有力特許の比率が示すように、特許の活用において、ある程度まとまった数の出願をすることが必要だと私は考えています。

4. おわりに

特許事務所で特許出願の代理業務に携わっていると、目の前の依頼を処理することで手一杯になりがちです。また、特許事務所の弁理士は、主に知的財産の保護(権利化)に携わることが主であり、当然、知的財産の活用について権利者に主体的に働きかける機会は少ないでしょう。

しかしながら、技術契約を体感して思うことは、知的財産の究極目的は活用であり、技術契約に携わった弁理士としては、いざという時に確実に機能する権利取得に貢献することを信条に今後も職務に邁進していきます。

夜間ロースクールで学ぶ

岩 田 啓 (稲門弁理士クラブ)

この4月から夜間で筑波大学の法科大学院（ロースクール）に通っている。終業時間になったら早々と荷物をまとめ、簡単に食事を済ませてから学校へ向かう。講義が21時に終わり、自習室で2時間ほど復習した後、自宅に戻る。そんな生活が日常になっている。

1. きっかけ

一般に、費用も時間もかかる法科大学院に通うには、法曹になるという強い信念がある人が多いだろう。これに対して私の場合は、自分の信念よりは周囲の影響が大きかった。

弁理士の多くは、意識的または無意識のうちに常にスキルを磨いている。磨くスキルは人それぞれで、実務能力であったり、語学力であったり、技術系の知識の習得であったりする。私の周りにも、そのようなスキルを磨くために自費で夜間の大学に通っている知人が多くいた。そのような知人達に触発され、機会があれば私も何かを学ぼうと思っていた。

また、弁理士会の研修等を企画するうちに弁護士に会う機会が増え、裁判実務について話を聞くうち、司法の分野に興味を持った。とはいえ、仕事を辞めて法科大学院に通う先輩弁理士の奮闘ぶりを聞くと、私には仕事を辞めなければならない昼間の法科大学院に通うほどの覚悟がなかった。

そうしているうち、先輩弁理士からの誘いで、ある法科大学院の説明会に出席した。その説明会で、夜間で学べる法科大学院があることや、法科大学院の入試では資格や社会人経験をも考慮されることを知り、「自分も行けるかも知れない」と思った。これが最終的に、法科大学院を受験するきっかけとなった。

2. 入学試験

法科大学院に入学するには、いくつかの手順を踏む必要がある。まず、どの法科大学院を受験するに

も、日弁連主催の法科大学院全国統一適性試験を受験しなければならない。この適性試験は5月下旬から6月上旬の間に2回行われ、その結果は合否ではなくスコアのみが出る。内容は論理的思考能力や文章読解力のテストで、大雑把に言えば大人の知能テストのようなもの。但し、長文読解部分の文章は論理的ではあるものの、かなり文系的(?)で、理系の私には馴染みがない。必要なスコアは、昼間の主要な法科大学院であれば実質的に8割近くと高いが、夜間の法科大学院は6割台でも充分だ。とはいえ、私は2つとも全国平均と全く同じ6割弱のスコアだった。準備期間が短かったのもあるが、何とも寂しい結果である。

次に、その心もとない適性試験のスコアを引っ提げて、夜間のある法科大学院に願書を出す。一般に法科大学院は、3年制の未修者コースと2年制の既修者コースがあるが、夜間では未修者コースのみを設置することが多い。夜間の法科大学院は東京都内に数校あるが、私は職場から通うことができる2校のみを受験した。

大学別の試験では、いずれも論文試験と口述試験があった。論文試験の内容は長文の要約や小論文。法学未修者コースであるため、法律的知識は問われない。過去問等の試験情報が少ないため対策を立てようがなく、ほぼぶっつけ本番で試験に臨んだ。小論文で、文字数制限がある問題は記載量にめどが立つが、解答欄が罫線のみで1頁分もある場合には記載すべき量に困る。時間の都合上、解答欄の半分しか埋まらないものもあった。また、普段から問題意識が薄いため、意見を聴かれる問いには、無難な内容を主張するのが精一杯。誤解のないよう、明瞭に書くことだけに気を付けた。面接形式の口述試験は、未修者は熱意のみを聞かれるものと思っていた。が、筑波大学での面接では、試験時間のほぼすべてで、死刑存廃論や裁判員制度についての意見を聴かれた。

今まで深く考えたことがないので、言葉は明瞭でも論理は大破綻。試験官の教授に呆れられ、刑事事件の考え方を試験中に教えられる始末だ。結局、適性試験と口述試験では散々な思いをしたが、なんとか2校とも合格することができた。運もあるが、法律関係の国家資格はかなり高く考慮されるようだ。もし弁理士の資格がなかったならば、厳しい結果であったに違いない。

3. 学校生活

筑波大学法科大学院はこの9月に秋葉原から茗荷谷に移転したばかり。東京メトロ丸ノ内線の茗荷谷駅から徒歩3分の位置にある。新校舎は、閑静な住宅街や公園に隣接した敷地内にあり、緑に囲まれ落ち着いた環境だ。勉強のための設備は申し分ない。24時間使える自習室、それに隣接する図書館、また個人のロッカーや棚が配備され、インターネット設備も充実し、判例等の情報収集に便利である。



緑豊かな敷地内に建設された6階建ての新校舎。5階に法曹専攻の教室が並ぶ。

学生は、夜間とあって一学年36人のほぼ全員が社会人。同期入学者の平均年齢は40歳で、昼間の法科大学院の平均年齢と比べると10歳以上高い。職業は会社員と公務員が主である。その多くが法務と関係し、金融、税務、行政、その他専門分野の法律の知識はかなり強い。公務員の中には特許庁の審査官も2人いる。知財の話ができるのは少数派であるため、妙に仲良くなる。弁理士も数名いて、特許法から六法への頭のシフトで苦勞する点が一致し、最も話が合う。弁理士は各学年に1人はいるようだ。学年問わず同じ設備を用い少数であるため、学内では毎日同じ人と顔を合わせることになる。このため上級生とも仲良くなり、講義についてアドバイスをもらうことができ有意義だ。

カリキュラムは、法科大学院には珍しい3学期制。月曜日が定休日、火曜日から金曜日まで75分の講義が2コマずつ入り、土曜日は4コマから5コマと忙しい。課題や発表があると、その準備の時間の確保をするため寝不足になる。ただ、それでもみんな

何とか凌いでいるところを見ると、修了すること自体は十分可能のようだ。

平日の講義は18:20から21:00まで。社会人学生が多いため多少の遅刻は大目にみられるものの、講義直前にほとんどの席が埋まる。そして、講義が終わると教室からはすぐに人がいなくなる。講義後に仕事に戻る人や、他県から1時間以上かけて通っている人もいる。年齢柄、仕事があったり、家庭があったりするわけで、教室内でゆっくりしている時間はないようだ。



図書館に隣接する自習室。席数に余裕があり、ゆったりと使える。

4. 今後

このように何とかスタートした夜間の法科大学院生活だが、自分にとっては厳しい面もある。同じクラスの学生のうち法学部出身者が約半数で、それらの学生と自分との基礎知識の違いは歴然としている。唯一学んだ産業財産権法は専門的且つ行政機関向きで、六法への応用が利きにくい。また、昼間の法科大学院に通う学生と比べると、知識の絶対量ではかなり劣るだろう。更に、司法試験の合格率は年々低下している。法務省の統計で、わざわざ「未修者非法学部卒」と区分される者の合格率は、法学部卒のそれと比べてかなり低い。

とはいえ、知人の弁理士の多くが司法試験で最終合格を果たしている。知人が基本的に理科系の学部卒であることを考えると、一般の「未修者非法学部卒」の合格率よりは遥かに高い印象だ。司法試験は、短答式・論文式・口述式と形式が弁理士試験と似ているため、試験対策や勉強の仕方のコツは共通するのかもしれない。

夜間の法科大学院を経て司法試験合格を狙う過程では、かなりの困難が伴うだろう。しかし、厳しい中でも、普段意識しない自分の持つアドバンテージを探し出し、工夫をしていく経験は、今後の糧となると思う。そして、私が多くの弁理士に触発されてこの世界に足を踏み入れたように、今度は自分がいい結果を出し、周囲の方々に「彼ができたのだから」とか「自分もやってみよう」と思っていたら最高だ。またこの誌面で、日弁の先生方に経過を報告できたらと思う。

屋久島滞在記

大 國 寿 香 (稲門弁理士クラブ)

ヤクザル大王

初めての屋久島旅行に際して選んだ作品は、児童書なのに怖い猿が表紙に描かれた椋鳩十著「ヤクザル大王」だ。

函館は「五稜郭」、会津は「白虎隊」、そしてローマは「冷静と情熱の間」といった具合に、私は旅に行く前に目的地を舞台にした作品を見て気分を高めるようにしている。「ヤクザル大王」は、屋久島の自然溢れる情景とともに島一番のボス猿の一生を描いた作品だった。そんなわけで、私はこの夏、ヤクザルの生態にのみ特化した知識を引っさげて、屋久島に上陸した。

いざ上陸

屋久島は「洋上のアルプス」と呼ばれる。鹿児島港から高速船にのって約2時間強、九州地方最高峰の山（宮之浦岳1936m）が海面にぬっと現れたら、それが屋久島だ。九州一高い山が屋久島にあるというのを初めて知ってまず驚いた。



鹿児島港から望む桜島。ここから屋久島に向けて出港する。手前が高速船TOPPY。

そして、もののけ姫の舞台となった苔のむす森と、その森に佇む縄文杉から、静かで女性的な島をイメージしていたのだが、実際に船から見た屋久島は意外にも猛々しい島だった。上陸前からこんなに意表をつくなんて、さすが世界遺産の島だ。

周囲約132kmの円形に近い島は、面積でいうと東京都の約半分にあたるらしい。島の屋根には常に雲がかかり、「月に35日雨」といわれる程雨を降らす。私の滞在中も、一日に何度も晴れたり降ったりを繰り返していた。また、海上に突如2000m級の山がそびえているため、島一つで亜熱帯から亜寒帯の気候を網羅するという、非常に稀有な自然環境だ。

屋久島は海も日本随一で、世界有数のウミガメが上陸地である「いなか浜」や、干潮の時だけ海から現れる海中温泉がある。温泉好きの私にとって、海中温泉は最高に魅力的だったが、混浴・水着着用不可だったので泣く泣く諦めた。

とにかく、実際に島に立ってみて、杉や猿だけでなく、それらを育む島自体がそもそも浮世離れしていることが良くわかった。



「焼酎川」という名のバス停がある。さすが。

森の仙人・縄文杉

旅の一番の目的である縄文杉を目指す日は、朝が苦手な私も早朝4時に宿をでた。

「世界遺産だから一度は見ておきたいね。」



縄文杉。5時間歩いてやっと出会える。樹齢3千年とも、5千年ともいわれる。

などという甘い気持ちでスタートすると、とにかく痛い目にあう。なんせ、縄文杉をみて帰ってくるには10時間歩き続ける必要があるのだ。「私、ここで待っているから先に行つて」と仲間に告げる場面や、ガイドが「進みますか？ここから急な勾配を1時間以上歩く必要があります。」などと選択を迫る場面を道中何度も見た。しかし道半ばにして「待っている」といっても、4時間待たねばならないし、「戻る」としても2時間は歩かねばならない。一步踏み入れてしまったら、進むもナントカ戻るもナントカだ。

私は、辛くなると「ヤクザル大王」で読んだ猿の暮らしぶりを、目の前の森に重ね妄想しながら乗り切った。

苦勞してたどり着いた縄文杉は確かにこの世のものとは思えないくらい神秘的で、まるで島の仙人の

ようだった。しかし、この感動もつかの間、帰り道は足が笑ってしまい、緩やかな下り坂で何度も転んだ。総じて、縄文杉対面の感動より、大変だったことの方が強く印象に残ってしまった。

屋久島の夜

屋久島は、一度滞在するとその魅力に惹きつけられ、移住してくる人が多いという。実際に、日中は緑の中を歩き、どこまでも透明な海で魚と戯れ、晩は「三岳（焼酎）」を飲み、テレビではなく雨音を聞きながら眠るという生活を2日もすると、こめかみが緩み、堅く閉まっていた頭蓋骨が広がるような感覚を覚えた。もし、学生のときにこの島にきていたら、今は弁理士ではなく、屋久島のツアーガイドになっていたかもしれないとハンモックに揺られながら考えた。

現代っ子

最終日、山に向かって車を走らせていたところ、車道に灰色の塊があった。車が近づいていくとそれはなんとヤクザルだった。しかし、車がいくら接近しても動く気配がなく、団子になってグルーミングをしている。クラクションを鳴らすと、面倒くさそうにガードレール脇に移動する姿は、「ヤクザル大王」には描かれていないヤクザルの姿だった。どんなに稀有な自然に囲まれていても、猿であっても、やはり現代っ子だった。



車道でくつろぐヤクザルたち

姉の婚活応援 ～I am not Sister Complex～

大塚 啓 生 (南甲弁理士クラブ)

<はじめに>

今春から弁理士として、ようやく、働き始める事が出来た身である私がまさか、こんなに早く誌面に登場するとは夢にも思わなかった。はて、困った。何を書こう？趣味のバスケのこと？最近、通い始めたジムについて？毎年観に行く「関根勤」のライブ・・・どれも、「ぴ～ん」と来ない。ふと横を見れば大分出てきた妻のお腹。決して幸せ太りした訳ではない。今秋、私は父になり彼女は母になるのだ。弁理士になれた上に、父にもなれ、今年は私にとって本当に幸多き年だ。ありがたい。この幸せを少しばかり分けたい位だ・・・、と思ったところで私の中で何かが閃いた！

<家族>

結婚する前の私の家族は両親と3つ上の姉と4つ下の弟の計五人。とは言っても、母は3年前に他界。短答試験合格発表の前夜に息を引き取ってしまった母に、合格の報告が出来なかった無念さは言葉に言い表せず、今でも思い出すと涙が出そうになる。そんな訳で、還暦を過ぎても現役バリバリで現在も単身アメリカで働いている父、今は定職にこそついていないが日々忙しそうなお姉と、これまた人生回り道をし、「最期のお願ひ」と病床の母に泣きつかれ、同級生より一周半遅れで大学生となった弟の3人が私の実家のメンバーである。実家と言っても、我が家とドア一枚隔てた隣にあり、姉と弟はそこで暮らしている。ちなみに父が住んでいるワシントンDCは、父の仕事の関係で私が中学、高校時代を過ごした思い出の場所である。思い出の場所といえば、もう1つ。フィリピンも私たち家族にとって思い出の地だ。フィリピン、アメリカで生活でき、大変だった事も含め様々な経験が出来た事が今の自分を作り上げている。

<幸せを分けてあげたいのは・・・>

さて、家族の事や自分の生い立ちをサクッと書いたところで、今回のメインテーマ？に話を移そう。ネタは山ほどある。何と言っても、生まれたときからの付き合いの「姉」の事なのだ。

そう、「幸せを少しばかり分けたい」相手は我が姉。声を大にして言うが、決して自慢の「姉」って訳でなければ、副題でも強調しているように当然シスコンでもない。ただ、今年の春先に「よく当たる」らしい占い師さんに「あなたは今年出会った人と来年結婚すると最高に幸せになる」と言われた事がよっぽど嬉しかったのか、誰とも出会っていないうちから浮かれ、すっかりその気になってしまっている姿を見ていたら、ちょっと「婚活」の手伝い？をしてあげようかと思ったのだ。「あなたと結婚する男は皆幸せになれる」と言われた事がまた、彼女に妙な自信をつけたらしい。もしも、独身貴族謳歌中の先輩方の中で姉に少しでも興味を持ってくださる方がいらしたら、遠慮なさらず私の方にまでご連絡下さい。

<姉と私>

姉は生まれつき心臓に疾患がある。生まれてから暫くは「あと〇〇の命」と言われていたそうで、身体も弱かった。その影響は三つ違いである私にも及び、色々、我慢を強いられてきた。姉が入院だ、検査だ、の度に札幌にいる母方の祖父母の元に預けられた時の寂しさは今でも覚えている。祖父母も好きだったが、一人で遠く、というのは堪えた。その経験上、私なりの子育て観が構築されてきたのだが、姉とはこの点で気が合わない。なるべく夫婦で育て、極力周りのお世話になりたくないという私の意向に姉は度々嘸みついてくる。大の子ども好きの姉は、アメリカ時代から保育を学び、帰国後も数年間は家庭保育室で働き、今もベビーシッターや小児病棟でのボランティアなどを行っている。悔しいが子どもに

関しては私より断然、経験も知識もある。多少は考え直す余地もありそうだ。ちなみに今の姉の人生最大の楽しみは「babyちゃんの誕生」らしく、妻から写メしてもらったエコー写真を眺めてはニヤニヤしている。

<不器用>

姉は私の知っている人の中でも群を抜いて不器用だ。それは気の毒になるほど。姉が中学3年生の頃、明日が提出日だという、卒業制作の刺繍を押し付けられた事がある。弟がお姉ちゃんに家庭科の宿題をしてもらおう、なんて話はよくあると思うが、我が家の場合は逆。自慢ではないが、私は結構、器用なのだ。数ヶ月間して「これだけ?!」って位しか進んでいなかった、その作品を、当時、6年生だった私が一晩で仕上げた。わざわざ言わなくても良いのに姉は提出の際に「弟にしてもらったの」と報告したらしい。

<ポニョ>

先にも書いたように姉は心臓が悪いため、体育は見学のプロ。そして運動経験が殆ど無いと人間こどもも柔らかいのか、と思うほど全身柔らかい。指も柔らかく、一発芸は小指を手の甲に付けることらしい。けれど、指よりもオススメは二の腕。赤ちゃんが姉に抱っこされると直ぐに寝る、というのはよく分かる気がする。背は小さく、以前「ミニモニ」が結成された時には、リズム感もないくせに「いつ呼ばれるんだろう」と思っていたらしい。もちろん、どこからもお声はかかっている。そうそう、3年前に大ヒットした宮崎駿作品の「崖の上のポニョ」のポニョに似ていると、その当時散々言われ、道を歩いていると知らない子どもから「ポニョ！」とまで言われたが、言われるだけであの人気の恩恵に与った様子はない。

<友達>

そんな姉だが友達には恵まれており、その年齢層は幅広い。親と同年代のご婦人と遊びに行く事もあるし、子供のときからの友だちも多い。姉の数少ない良いところの1つは友達を大切にしているところだと思う。以前、姉の友達で私にとっても幼馴染の結婚式の二次会に行った事がある。その二次会の幹事が姉だと聞いていた時から、胸騒ぎがしていたが

それは的中。ハロウィンが近かったからか、何と姉は二次会の間中、仮装し、何故か一人で幹事をしていたのだ。その場で初めて姉に会った人は驚き、暫く、どこかの遊園地のマスコットのように写真を撮られていた。盛り上げるため、友だちが喜んでくれる為には結構身体を張る傾向があるようだ。この夏も週末になると、「友だちの結婚式の余興の練習」と出かけていた。今度は何をするのだろうか・・・。

<食と料理>

姉は体型のわりに量を食べないし、お酒も殆ど呑まない。けれど、宴会の場が大好きで、シラフでも酔っ払いにひけをとらない。飲兵衛では無いが、食べ物の好みは酒呑みのようだ。生肉やホルモン、エスニック料理、食べた事ないものを食べに行くのが大好きで、色々なお店も知っている。また、外で食べて来たものを舌の記憶を辿って作ったり、料理を創作する事も趣味の1つらしい。ただ、アバウトなO型なので、料理は目分量。大きな失敗も少ないが同じ味は二度と作れず、同じものでも毎回少しずつ味が変わることが特徴だ。ちなみに十八番はビーフストロガノフと牛肉Pho。肉食なのだ。

<手話>

趣味では無いらしいが、七年ほど前から手話を学んでいる。でも、それまでの習い事、ピアノ、習字、某赤ペン先生・・・どれもモノになっていない。「どうせ、手話もすぐ飽きるでしょ?」と記憶にはないが私は言ったらしい。それが効いたのかどうかは分からないが、飽きるどころか年々、姉の手話熱は高まっているようにさえ思える。姉が夜いない時の3回に2回は手話関係の用事。不器用ながらも努力の甲斐があり、去年は地域の手話通訳者試験にも合格したらしい。やる時はやるようだ。

<おしまいに>

ここまで書いて、果たしてこれが姉の「婚活」応援になったかは自信ないが、昔の事を色々思い出したりして、私自身楽しく書けた。途方もなく長い気がした「3000字」も、短く感じた。もちろん、これが姉の全てではない。まだまだ、書き尽くせぬネタはたくさんある。でも、それは連絡を下さった貴方にだけ、こっそりお話ししたいと思う。

ホタルの里をめざして

山 田 一 範 (南甲弁理士クラブ)

1. はじめに

私の実家は新潟の田舎町にある。どのくらい田舎かというと、野ウサギ、タヌキ、テンなどの野生動物が庭を闊歩し、草ガメが産んだ卵を数匹の蛇が絡み合いながら奪うように飲み込むという光景を簡単に観察出来るくらい自然に溢れている（誤解され過ぎても困るので補足しておく、すぐ近くにコンビニもある）。

私自身は小・中・高・大ともに学生時代は新潟市で育ったので、小さい頃から実家にはたまに帰省するくらいであったが、昔から昆虫採集や山菜採りなどをして実家の自然に触れるのが大好きだったし、幼少期にそういう経験ができたことを幸運に思う。特に、庭をホタルが飛び交う姿を小さい時から当たり前に見られたことは誇らしくもある。平成23年の今現在でも、6月半ばになれば実家の庭でホタルを観察することが出来る。

しかし、数年前にホタルが飛ぶ時期に帰省して実際に観察した感想は「こんなに少なかったかなあ？」というものであった。今現在実家に住んでいる両親に確認したところ、やはり昔に比べて減ってきていることは間違いないようである。僕の5歳頃の記憶では、ナウシカのラストシーンの王蟲の大群の光のように無数の光が一面に広がっていた（多分に思い出補正が入っています）はずなのだが、今はぼつぼつと光っている程度で寂しい限りである。

私はその現状を目の当たりにして、昔のように大群のホタルが飛ぶ光景を再現することが自身の天命であると勝手に思い込み、その時からホタルを増殖するために何をすべきかを検討し始めた。以下の文章は、ホタルの生態についての簡単な説明と、全国的にも減少傾向にあるホタルについて多少なりとも興味を持って頂くためのものとしたと思う。

2. 簡単なホタル及びカワニナの生態の紹介

日本国内においてホタルは約40種存在するらしいのだが、メジャーな存在としてはゲンジボタルとヘイケボタルの2種が挙げられ、これら2種は比較的生態も似通っている。これらのホタルの成育がなぜ難しいかというと、ホタルの幼虫が食べる餌を選び好みするからである。特に、私の実家で飛んでいるゲンジボタルに関しては、カワニナという細長い巻貝ただ1つしか食べないという徹底ぶりである。ちゃんと野菜も食べてくれたらもう少し成育も楽なのであるが、こればかりは好みなのでしょうがない。

他方、カワニナはといえば、より一層気難しい奴である。住む場所である水路の水質が相当に綺麗であることが基本的条件なのだが、それだけでなく、餌となる有機物（落ち葉など）を摂取できること、溶存酸素量が多いこと、流速が早過ぎないこと、増水したときに隠れ場所があること等々、育つ環境が非常にデリケートである。ちなみに、このカワニナは水質階級Ⅱ（河川の水質で2番目に綺麗であるランク）の指標生物となっているそうだ。

3. ホタルが減った理由の考察

なぜ実家周辺のホタルは減ってしまったのか？これは考えるまでもなく恐らくこれが原因だろうと思うのだが、河川の護岸工事がされたこと、及び、土を掘って作ってあった農業用水路に変えてコンクリート製のU字溝が使われるようになったことである。これは私の実家に限らず随分と昔から全国で行われてきたと思う。治水対策、農業用水の効率的分配、清掃の容易さという点を考えれば当然実施されるべき施策である。しかし、ホタルの生息という側面から見れば大打撃であった。コンクリート製のU字溝ではホタルの幼虫は生きられないのだ。たぶん、日中暑いときに隠れたり越冬したりするために潜るこ

とが出来ると必要なんだと思う。

4. 直面した課題

このように、実家でホタルを増殖するための課題が浮き彫りになってきた。上記、コンクリート製のU字溝を土に戻すことは個人の力ではもう出来ない。現存する土の水路を護っていくことが大切。ここで問題なのが、実家の庭にホタルが飛んでいるわけなので当然カワニナが生息可能な土で出来た水路がまだあるのだが、この水路が実家の敷地と隣の土地との境界のギリギリ外にある。つまり、その水路を護りたいと思っても、他所様の土地なので私が勝手に働くわけにもいかない。この状況でホタルを増やすと大見得切ってみたところで虚しいだけ。

そこで、思い付いたのが、実家の敷地内に人工的に水路を形成してビオトープを作り、そこでカワニナを繁殖させるということ。祖父母が稲作を止めた際に田んぼを埋めて平地にした小さな土地が家の直ぐ向かいにあるのだが、今は杉の幼木が植えてあるだけで特に使っていない。この土地の一番奥に田んぼに水を引くために使っていた水源があるので、この水源を上手く使ってビオトープを作ろうと考えたわけである。この考えを父親に提案してみたところ、意外なことに父親も同じようなことを考えていたようで、あっさりとコンセンサスは得られた。

とはいっても、幼木とはいえ杉が狭い間隔で何十本も植えてある状況なので、ビオトープ実現には杉の伐採が不可欠だし、地中に張った根のことを考えると人力でどうにかなる問題ではない。業者に頼むとなると費用の問題もある。また、上記のようなカワニナの気難しさから考えても、実際にお金を掛けて土地を改良して水路を作ってみたけど、カワニナの生息できる環境ではなかったという落ちになる可能性も十分にある。この程度の段階では、与野党間で政策合意が出来たといっても、財務省から予算が下りない。

5. ちょっとした試み

ビオトープ計画は無理かと諦めかけたときに、ふっと思い立った。何も水路を整備してからカワニナを移すというように段階を踏まなくたって、今移せるところには試しに移してみればいいんじゃない

か？ということ。ビオトープの水源にしようと思っていた個所にわずかながら水路がある。この場所は排水が上手くいかないために水が滞留してしまっていてお世辞にも綺麗とは言えない悪環境なのだが、ここでカワニナが生きられればビオトープも現実味を帯びてくる。そこで、その悪環境の水路に実際に十数匹のカワニナを移してみたのだ。

このちょっとした試みをしたのが確か2～3年ほど前。正確な年数を覚えていないのは、私自身が今年に入るまでそのことをすっかり忘れていたから。今年、ちょうどホタルの飛ぶ6月下旬に法事のために実家に帰省して、この試みのことを思い出したのである。そして、カワニナを放った水路を確認してみると、見事に増えていて多数のカワニナを確認することができた！まさかの僥倖！これでビオトープ計画が一步前進した。財務省を説得するための好材料ともなるであろう。

6. 終わりに

全国にはホタルを保護しようとされている方がたくさんいらっしゃる。自治体レベルで活動を行っているところもあるようだ。その方々のHPやブログが非常に参考になった。感謝とともに、便利な世の中になったなと改めて思う。

ときに、ブラックバス等の外来種による生態系汚染の話はよく聞くが、ホタルの事を調べていて「遺伝子汚染」という言葉を初めて知った。ホタルやカワニナを保護しようとして他の地域からこれらを移すことで遺伝子的な汚染が起こるというものだ。DNAを知ることが可能となった現代ならではの問題である。実際に、全国的に有名なホタルの里のDNAを調べたら全然違う地域のホタルのDNAだったという問題があったらしい。ホタルの例でいえば、西日本のホタルと東日本のホタルとでは発光周期が異なるというDNA上の違いがあったりするので安易に無視できない問題なのだ。

先人がホタルを増やすために行ったであろう他地域への放流という行為が遺伝子汚染という他の問題を生むというジレンマ。ホタルを後世に残すにはどちらを優先すべきか非常に難儀な問題ではあるが、少なくとも私は実家のホタルを後世に残すべく活動しようと思う。

北 欧 旅 行 記

藤 田 朗 子 (南甲弁理士クラブ)

今年8月に1週間ほど北欧を個人で(両親と3人旅)旅行してきました。

「会員便り」に投稿させていただく機会を得たので、旅行の思い出を振り返りたいと思います。この旅行記で皆さまに現地の雰囲気伝えることができ、今後の旅行の参考になれば嬉しいです。

1. なぜ北欧旅行？

フィンランドは日本から一番近いヨーロッパと言われ、直行便を使えば、成田ーヘルシンキ間は10時間かからずに行けます。また、寒く日の短い冬と違って、夏は夜10時過ぎまで明るく、観光のベストシーズンということも選択した理由のひとつです。

個人旅行では団体旅行のようにバスを仕立てて長距離を移動しながら観光するのが難しいため、1箇所に2、3泊滞在してその近辺をじっくり観光という形を取ることにしました。フィンランドとスウェーデン間はフェリーでの移動が可能で、また、地図を見ていたら、バルト三国の一つ、エストニアを中継することが出来そうなことに気付き、フィンランド、エストニア、スウェーデンの3カ国を周遊することに決めました。

2. 旅行の準備

(1) 交通手段の手配

①航空券

まず、4月上旬に航空会社の正規割引航空券をインターネットで購入しました。日本語のホームページがあるので、購入は簡単でした。早い時期なら値段の安いチケットが残っているので、日程だけ先に決めて航空券を早く確保することを心掛けました。

今回は、行き：成田→ヘルシンキ、帰り：ストックホルム(ヘルシンキ乗継)→成田、としました。

②移動手段(フェリー)

ヘルシンキからエストニアの首都タリンまでは、

フェリーで約2時間。また、タリンからストックホルムへは、やはりフェリーで約15時間(夕方18時に出航し、翌日10時に到着)です。北欧専門の日本の旅行会社によるヘルシンキ&タリン3泊4日ツアーという宿とフェリーがセットされた現地発着ツアーを利用しました。

(2) 宿の手配

旅行ガイドブックを見て、良さそうなホテルを選んで、ホテルのホームページから直接申し込みました。

3. 現地での行動・感想

(1) フィンランド・ヘルシンキ

フィンランドは森と湖の国。おしゃれなデザインの北欧雑貨も有名です。

ヘルシンキの街はコンパクトにまとまっており、交通手段も発達しているので、個人でも十分観光を楽しめます。また、島に作られた海防要塞である「スオメンリンナ要塞」(世界遺産)や、電車とバスを乗り継いで「ヌークシオ国立公園」へも足を延ばしました。公園には複数のハイキングコースが設けてあり、ちょうどブルーベリーのシーズンだったので、道の両脇に生っている実をつまみ食いしながら森を散歩しました。現地の人にはバケツを片手に摘みながら歩いていました。秋にはきのこ狩りが楽しめるそうです。



ヌークシオ国立公園

(2) エストニア・タリン

タリンの旧市街は中世の街並みを色濃く残す城壁都市で世界遺産になっています。街自体は趣のある

石造りで素敵な所でしたが、街中は観光客でごった返し、中世風(?)の衣装を着た店員さんが客引きをしているのが目を惹き、随分と観光地化されているなあというのが正直な感想でした。ヘルシンキの南80kmと近く、物価も安いので北欧からの日帰り



タリン旧市街

観光地として人気だそうです。私達はタリンの旧市街に1泊したため、朝、まだ人が少なく落ち着いた街を散策できました。

(3) スウェーデン・ストックホルム

ヘルシンキ同様に交通手段が発達しているので、個人でも十分観光を楽しめます。ただ、ヘルシンキと比べると大きくて、より都会的な印象を受けました。

ノーベル賞の晩餐会が催される市庁舎や、王宮があるガムラスタン、ドロットニングホルム宮殿(世界遺産)、あとは各種博物館・美術館、公園等、見所いっぱいです。

(4) 全体の感想

①食べ物

海の幸、特にスモークサーモンやニシン、また、ヨーグルトやベリーを沢山いただきました。ホテルは朝食込みが基本なので、毎朝豪華なブッフェを楽しみました。夜はビールやワインを楽しめる気楽なお店を選んでいっていたので、食べ物には満足しました。円高でユーロが安かったのも大きいと思います・・・。

②現地の人の温かさ

ヘルシンキの路線バスは、次の停留所のアナウンス(車内での電光掲示板表示も)がありません。いつどこで降りたらいいのか不安で、地図と外の景色と交互に見比べていたら、「どこに行きたいの?」と隣の人が声をかけて下さり、その後の行き方まで説明してくれました。

また、やはりトラムと地下鉄、どちらで行こうか迷って道の端で地図を広げていたら、声をかけられ、乗り場まで案内してもらいました。

本当にありがたく嬉しかったです。私も、日本で困っていそうな旅行客をみかけたら、声をかけてお手伝いしようと思いました。

③サウナ

フィンランドはサウナの本場。ヘルシンキだけでなく、ストックホルムのホテルや、フェリーにもサウナが併設されていたので、せっかくだから入ってきました。部屋の隅に、熱した石が入った桶があり、石に水をかけて、部屋中に蒸気を充満させます。自分で水をかけるという行為が面白くて、熱くなるのはわかっているのに何回か水をかけてしまいました。

④お土産

今回初めて、航空会社のプリオーダーシステムというものを利用しました。行きの機内で注文しておく、帰りの飛行機の座席に注文品を置いておいてくれるというものです。

まだ旅先に到着してもいないのに買い物?という思いがなかったわけではないのですが、液体物を購入できるのは良いシステムだと思います。機内持ち込みが制限されているお酒などの液体物をスーツケースにパッキングする手間がなくて楽ちんでした。

4. 振り返り

7泊8日、3都市周遊の旅の企画&ツアーコンダクターを担当し、楽しいながらも責任重大でした。両親と四六時中一緒にいる機会は今では滅多にないので、お



フェリー甲板にて(仲よし親子の影)

互いに過度に気を遣った面もあります。まあでも大きな喧嘩をすることもなく(母と私が組むのが面白くなって父の機嫌が悪くなったとか小さいのは多々ありますが・・・)無事に帰ってこられて良かったです。非日常を満喫してリフレッシュできました。

ちなみに、フィンランド語、エストニア語、スウェーデン語と母国語はありますが、観光地では普通に英語が通じました。もっときちんと現地の方と意思疎通が出来るようになりたいという想いの強い今のうちに、英語の勉強を進めようと思います。

今年の「五山送り火」

小 永 兼 (南甲弁理士クラブ)

1. はじめに

今年は、3月11日に発生した東日本大震災によって、各方面に少なからず影響がありました。これは、京都のお盆の行事である五山送り火も例外ではありませんでした。

五山送り火の主催者が、東日本大震災の被災地である岩手県陸前高田市の被災松を、送り火の護摩木として一旦受け入れたものの、一部の放射能汚染を不安視する声を受けて受け入れ中止を決定したというものです。この主催者の決定に対し、多くの人たちから非難の声が挙がりました。

私は、京都で生まれ育ちました。実家は現在も京都にあり、お盆の季節には毎年京都に帰省しています。これは、毎年8月16日に行われる五山送り火を見物するためです。今年も、仕事の繁忙期に関わらず、無理を押して帰省しました。

実家に帰省して、初めて被災松の一件を知った私は、今年の五山送り火はどうなることかと少々不安を覚えました。

2. 五山送り火の名称

私は、五山送り火のことを昔から「大文字焼き」と呼んでいます。この大文字焼きという呼び方に関しては、地元では嫌悪する人たちもいるようで、五山送り火と言わないと注意されることもあるようです。しかし、私は京都を離れるまで、「大文字焼き」と言って注意された経験はありません。また、多くの地元民は、普通に「大文字焼き」と呼んでいます。ということで皆さんも安心して好きな呼び方をして頂きたいと思います。

3. 五山送り火の概要

ここで、五山送り火について簡単に紹介しておき

ます。

五山送り火は、「大文字」、「妙法」、「舟形」、「左大文字」、「鳥居形」の5種類の送り火からなり、8月16日の夜8時から30分～40分程度の間点火されます。

最初に点火されるのは「大文字」です。この大文字は、JR京都駅から北を見て2時の方向にある京都市左京区の東山如意ヶ嶽に点火されます。大文字は、一般的に言われる「大文字焼き」の大文字であり、五山送り火の主役とも言うべき存在です。

次に、点火されるのは「妙法」です。この妙法は、JR京都駅から北を見て1時の方向にある京都市左京区の松ヶ崎西山と松ヶ崎東山に点火されます。他の送り火とは異なり、2つの文字で構成されており、2つの山に点火されるという異色の存在です。この妙法の存在を考えると、五山送り火は、「六山送り火」と表現するのが正確かも知れません。

次に、点火されるのは「舟形」です。この舟形は、JR京都駅から北を見て11時の方向にある京都市北区の西賀茂舟山に点火されます。舟形は、一筆書きできそうな舟の形をしています。この舟型、特筆すべきは、横が約200m、縦が約130mもあり、その大きさは五山送り火の主役である大文字を遙かに凌ぐものです。

次に、点火されるのは「左大文字」らしいです。この左大文字は、京都駅から北を見て11時の方向にある京都市北区の大北山に点火されます。また、この左大文字は、五山送り火の中で大きさが最小です。ちなみに、京都市は、区割りに関しては、右側に「左京区」、左側に「右京区」がある一方、この五山送り火に関しては、右側に「大文字」、左側に「左大文字」があり、その意味で統一感はありません。

最後に、点火されるのが「鳥居形」です。この鳥居形は、京都駅から北を見て10時の方向にある京都

市右京区の嵯峨鳥居本曼荼羅山に点火されます。鳥居形は、地図記号の神社をもうちょっと複雑にしたような形状をしています。また、火床が108ヶ所と、五山送り火のうち最も多い送り火です。

4. 見物のスタイル

五山送り火の見物方法は、私見では、4つのスタイルに分けることができますと思います。

1つ目は、ホテルの上層階に予約を取ったり、京都タワーの展望台に出かけたりして見物するスタイルであり、遠方からの観光客の見物スタイルです。観光客の中には、鴨川沿いの川床で優雅に食事を取りながら見物する方もたくさんいます。私は、このようなスタイルの見物をしたことがないので羨ましい限りです。

2つ目は、気合い十分な地元民の見物スタイルです。バスや自家用車でわざわざ見やすいスポットや山の麓に行ってみ物します。但し、山の麓に行ってみ火が綺麗に見えるかは疑問の残るところです。私はこのような見物をしたことはありません。

3つ目は、一般的な地元民の見物スタイルです。五山送り火の当日は、市内の多くのビルが一般に開放されるため、多くの方は、近所のビルの屋上で見物を済ませてしまいます。京都市は建物の高さ制限が厳しいことで有名ですが、その甲斐もあって、5、6階程度の高さがあれば市内の至るところから全ての送り火を何の支障もなく見物できます。観光案内などで、五山送り火当日にはホテルの予約がいっぱいになったり、展望台が満員になったりと言った記載もあるみたいですが、来年以降観光される場合、適当なビルの屋上に行けば十分見物できることを気に留めておくといいでしょう。なお、この見物スタイルを採る人たちは、浴衣姿の風流を大切にす少数派の人を除いて、ジャージや部屋着といったラフな格好をしています。パジャマや股引だけで見物している人も多くいます。こういう意味では、町のお祭りと変わるところはなく、五山送り火が地元民に定着している証拠と言えます。

ちなみに、私も、中学生くらいまではこの3つ目の見物スタイルでした。幼少の頃は、父に連れられて近所のビルの屋上まで見物に行ったのを思い出

ます。

4つ目は、近所のビルに登ることも面倒臭くなった地元民の見物スタイルです。京都市には高いビルがないため、多少広い道路や公園に行けば、送り火のいくつかは見物できるからです。

例えば、左大文字がある大北山は、京都市内を南北に延びる西大路通の北端あたりに位置しています。そのため、西大路通の真ん中に立てば、何の支障もなく見ることができます。五山送り火が点火し始める頃になると、近所の人がちらほらと動きだし、西大路通の中央分離帯を埋め尽くします。この時ばかりは、警察が注意することもなく、車も遠慮がちに走行してくれます。この見物スタイルの場合、自動車の往來が激しい道路の真ん中から、昔と変わらぬ送り火がある風景を見物できるということで、そのギャップを楽しむことができます。そういう意味では、最も通な見物スタイルと言えます。ちなみに、私の実家は、西大路通の近所にあり、最近の私は、もっぱらこの4つ目の見物スタイルで左大文字だけを楽しんでいます。その先、10メートルも歩くと近所のビルがあるのですが、それすらも面倒臭くなったのは歳を取ったせいかもしれません。

5. 終わりに

以上、五山送り火について、勝手な見解を織り交ぜつつ説明してきましたが、この五山送り火は、何を隠そう、葵祭、祇園祭、時代祭と並んで、京都の四行事の1つに数えられています。しかし、この行事は精霊送りを目的とすることもあり、他の3つの行事に比べ華やかさはありません。そのため、これまで余り脚光を浴びる存在ではありませんでした。

しかし、今年は、東日本大震災の関係で例年以上に話題に挙がることとなりました。それも良い話題ではありませんでした。そして、私自身、例年とは違い何とも言えない不安な気持ちを抱き当日を迎えました。

でも、左大文字は、何もなかったようにいつもと同じ姿で京都の夜空に浮かびました。そんな左大文字の姿を見た私は、「まだまだ日本は大丈夫」と一人胸をなでおろすのでした。

鰻、あれこれ

平木康男 (PA会)

はじめに

鰻が好きであります。

週に一度は鰻を食べていますし（毎日食べても平気です。以前浜松に遊びに行ったときは朝昼晩と鰻を食べました。）、仕事等で普段行かない町に行くと、「美味しい鰻屋はあるかな？」と携帯グルメサイトで検索します。

こんな大好きな「鰻」について思いつくまま、書いてみたいと思います。

鰻重と鰻井

鰻を使った料理、たとえば、やはり鰻重、鰻井が真っ先に浮かびますよね。店の外にまで流れてくる、鰻を焼く芳ばしい香りに誘われ、鰻屋さんの店内に思わず入ってしまい、待つことしばし。やがて運ばれてくる鰻重（鰻井）の蓋を開けるのももどかしく、芳ばしい香りを堪能した後、山椒をパッとふって、たれの染みたご飯と共に鰻をパクパク・・・う～ん、想像しただけでよだれが出てきます。

この鰻重と鰻井、一体どう違うのでしょうか？「重箱に入っていれば鰻重、井なら鰻井。容器が違うだけ」「焼き方がちょっと違う」「値段が高いのが鰻重、お手頃な値段なのが鰻井」「本当の鰻重は、鰻とご飯が別々のお重に入っているもの」と、色々な説があるようです。

90年代に一世を風靡したグルメコミック「美味しんぼ」では、主人公山岡士郎が「重箱は保温性が低いから鰻もご飯も冷めやすい。本当の鰻好きは最後まで熱々で食べられる、鰻井を選ぶものだ！」みたいなことを言っていた気がします。

気になったので、よく行く鰻屋さんのご主人に尋ねてみました。結論は、やはり「容器が違うだけ」。鰻井と鰻重で調理法などに差は全くないそうです。

ちなみに、メニューに鰻重と鰻井の両方があるお

店は、やはり、鰻重の方が鰻井より高いところが多いようです。

また、鰻とご飯が別々のお重に入っているお店はまれで、鰻重でも（当然のことながら）ご飯の上に鰻が乗っているのが多いようです。

最後に「美味しんぼ」の山岡さん主張の「容器の保温性云々」について、上述のご主人に尋ねてみると、「関係ないでしょ。どうせ冷める前に、みんな食べちゃうし」とのこと、でした。そりゃそうですね。

鰻重、鰻井の「松、竹、梅」の違い

鰻屋に入り、注文しようとして迷うのは鰻重（鰻井）の「松、竹、梅（あるいは上、中、並）」の違いはなんなのか、ということではないでしょうか。これがお寿司や天ぷらだと、ランクが上なほど良い材料（ネタ）を使っているだろうと想像が付きませんが、鰻重の場合は中に入っているのはどれでも（当たり前ですが）鰻です。

これもお店によって違いがありますが、ほとんどのお店は「鰻の大きさ」の違いのようです。つまり、ランクが上がっていくほど、乗っている鰻が大きくなる、という訳です。

鰻の世界では、昔ながらの「大きいことは良いことだ」なんですね。

私は最近「竹（または中）」を頼むことが多いです。以前は沢山食べたくて、奮発して「松（または上）」を頼んでいたのですが、年齢のせい、最近は食べられる量がめっきり減りました・・・（とちょっと寂しい話）

「関東の背開き」「関西の腹開き」

鰻というと必ず出てくる話が「関東の背開き」「関西の腹開き」ですね。

曰く「関東（江戸）は武士の町なので、切腹を連

想させる腹開きを敬遠して背開きになった。対して関西（大阪）は商人の町なので『腹を割って話しましょう』ということから、腹開きになった（あるいは、商人の町なので、武士に遠慮する必要はなく、調理しやすい腹開きになったという説もあります）、というわけです。

しかしながら、これは実際には俗説であり、本当のところはよく判っていないようです。

他に関東と関西の鰻の違いというと焼き方の違いが挙げられます。関東は開いた後、頭を落として素焼きし、それを蒸籠で蒸して、もう一度たれをつけて焼くのに対し、関西では背開きにした鰻を頭を落とさないまま、たれをつけて焼き、焼き上げた後で頭を落とします。一度蒸すことによって、関東の鰻はふっくらと仕上がりが、関西の鰻はパリッと芳ばしく仕上がります。

どちらが美味しいかは、好みということで・・・。

他にも、九州では、背開きでたれをつけて焼いた後、一度蒸して、またたれをつけて焼くそうです。どんなものか味わいかはまだ食べたことがないので判らないのですが・・・。また名古屋の櫃まぶしも有名ですよ。

以前、金沢に行った際に地元の人に聞いた話では、金沢には「鰻屋」がないそうです。鰻は蒲焼きを買ってきて、家でご飯に乗せて鰻丼にするのが金沢では基本とのこと。じゃあ外食の際にどこで鰻を食べるのかというと、お寿司屋さんだそうです。金沢では鰻の握りというのが定番で、穴子より食べられているのだとか（最近、回転寿司のメニューに鰻の握りがあるので、大分全国区になったようですが）。

名コピー「土用の丑の日」

七月になると、鰻屋さんの店頭に踊る「土用の丑の日」の貼り紙。暑いときでも、「土用の丑の日」と聞くと、「鰻を食べなくちゃ」という気分になりますよね。

この「土用の丑の日」という言葉、知り合いの鰻屋に「夏になると鰻の売れ行きがさっぱりだから、なにかいい方法を考えてくれ」と頼み込まれた平賀源内が、考え出した、今で言うキャッチコピーということはあるんですよ。三百年近い時を経た今でも、

人々に定着している「土用の丑の日」、平賀源内さんは名コピーライターだったのですね。

ちなみに「土用」とは（年配の方はご存じでしょうが）、旧暦の立夏・立秋・立冬・立春の前の18日間を差す言葉です。その18日間に十二支の丑の日が来るのが「土用の丑の日」というわけで、今年のように土用の丑の日が2回あることもあるわけです。

余談ですが、鰻屋さんにとっては一番のかき入れ時である「土用の丑の日」。東京で一、二を争う鰻の名店である東麻布の某店ではあえてお休みにするそうです。「土用の丑の日は鰻のニーズが高すぎて、常連さんに美味しい鰻を提供できないから」という理由だそうです。一流店の矜持と見るか、ちょっとへそ曲がりとするかは皆様のご判断にお任せします。

おわりに

鰻は成長過程に謎が多く、近年まではその産卵場所すら分かっていませんでした。このため、鰻の完全養殖はできないと長年言われてきた（現在の鰻の養殖は、シラスウナギと呼ばれる稚魚を捕ってきてそれを育てています）のですが、昨年、独立行政法人・水産総合センターが、鰻の完全養殖（人工孵化した鰻を成長させた上で、産卵させ、その卵から産まれた鰻を育てる）に成功しました。昨今、シラスウナギの乱獲による鰻不足が問題となっていますが、この完全養殖が軌道に乗れば、もっと手軽に鰻が食べられるようになるかもしれませんね。

鰻は肌や目に優しいビタミンAや、疲労回復効果のあるビタミンB1、ガン予防に効果のあるカロチンが豊富に含まれています。更には、尿酸値を上げ、通風の原因になるとも言われるプリン体が少ないなど、とても身体に良い食品です（敢えてウィークポイントを言えば、ビタミンCが含まれていないことくらいでしょうか）。

皆様も明日の健康のために、是非鰻を。

念のため付け加えておきますが、鰻屋さんから、賄賂を受け取ってこの原稿を書いているわけではありませぬので、念のため。単なる鰻好きです。

こんな原稿を書いていたなら、また鰻を食べたくなくなってきました。今晩は鰻丼にしようかな。



このコミック＆ラノベが面白い！

野田 薫 央 (P A会)

1. はじめに

オタク弁理士の野田です。クールジャパンの代表格のアニメ・コミック・ゲーム作品には多くの良作が存在します。今回は最近私が好きなコミックとラノベ(ライトノベル)を4作品紹介したいと思います。少しでも興味を持っていただければ幸いです。

2. コミック編

題名	3月のライオン
著者	羽海野チカ
出版社	白泉社

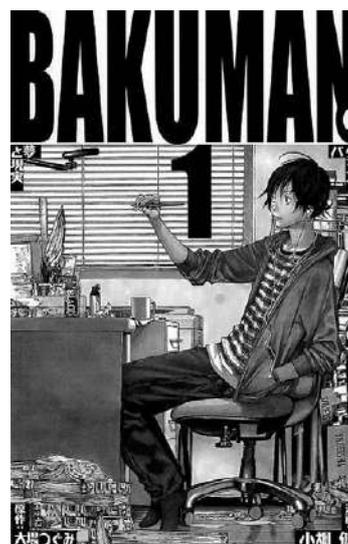


© 羽海野チカ / 白泉社

事故で家族を失った高校生プロ棋士の少年と母を亡くし父に捨てられた3姉妹との交流を軸に、少年を取り巻く人々の人間模様を丁寧に描いた作品。軽い内容ではないので読後に脱力感を覚えることもあるが、懸命に生きる登場人物たちを心から応援したくなる。もちろん将棋を知らなくても十分楽しめる作品。著者は、恋愛漫画の「ハチミツとクローバー」

でも有名。近年「ブクログ大賞マンガ部門大賞2010年」、「マンガ大賞2011年」、「講談社漫画賞2011年」等の多くの賞を受賞している。

題名	バクマン。
著者	原作：大場つぐみ 作画：小畑健
出版社	集英社



© 大場つぐみ・小畑健 / 集英社

大ヒットコミック「DEATH NOTE」の原作・作画コンビが漫画制作現場の裏側を描く青春サクセスストーリー。主人公の少年2人組が人気漫画家を目指して全身全霊をかけて無茶とも思える努力をひたすら繰り返す姿に圧倒される。読後には「俺も努力をしよう！」と本気で考える自分がある(持続しないが)。ヒロインとのプラトニックな恋愛にも思わず萌える。2010年にNHKでアニメ化され、2011年10月からアニメ第2期が放映予定。累計発行部数は1000万部を超える。

3. ラノベ編

題名	化物語 (物語シリーズ第1巻)
著者	西尾維新
出版社	講談社



© 講談社

最近私が最も熱中しているラノベ作品。とある日本の地方都市を舞台に、怪異と関わって異能の力を得た高校生の少年が、他の怪異による災厄に翻弄される少女たちの煩悶を解きほぐす話。エピソードごとに登場する少女たちのキャラクターがそれぞれ独創的で作品の世界観に引き込まれる。現在第2期全6冊が順次刊行中。年間4冊という量産状態にもかかわらず、毎回凝った話で一気に読ませる。2009年にアニメ化され、2012年にTVアニメ第2期と劇場版が放映・公開予定。

題名	涼宮ハルヒの憂鬱 (涼宮ハルヒシリーズ第1巻)
著者	谷川流
出版社	角川書店



© 角川書店

現在日本で最も人気のラノベ作品。2011年発行の最新巻『涼宮ハルヒの驚愕 (シリーズ第10・11巻)』の初版発行部数は、両巻とも51万部を超えてラノベ史上最高を記録。シリーズ累計発行部数は800万部、海外版等をあわせると1650万部に達する。

超常現象を待望する自由奔放な女子高生「涼宮ハルヒ」を中心に、彼女が宇宙人・未来人・超能力者を探し出すために設立したSOS団のメンバーが繰り広げる時空を超越したSF学園ストーリー。タイムパラドックスのSF作品としても充分楽しめる。著者はこれがデビュー作(スニーカー大賞に応募して大賞受賞)というから驚き。2006年と2009年にアニメ化され、2010年に劇場版も公開された。

4. まとめ

今回は上記4作品のみを簡単に紹介しましたが、他にも個人的に面白いと思う作品は山ほどあります。ラノベだと「星界の紋章」「半分の月がのぼる空」等、コミックだと「君に届け」「宇宙兄弟」「夏目友人帳」「蟲師」「プラネテス」「もやしもん」「ファイブスター物語」「バリバリ伝説」等々、枚挙に暇がありません。

「漫画なんて」と先入観を持たず、一度読んでみては如何でしょうか？

5. あとがき

今回、各出版社に作品の表紙画像の使用許諾をお願いしたところ、快諾していただきました。感謝申し上げます。以上



少年少女新世界文学全集

穂坂道子 (PA会)

1. プロローグ

子供の頃、私は本を読むのが好きではありませんでした。母がひざに抱いて本を読んで聞かせてくれたもちっとも興味がわかず、すぐに遊びに行ってしまうような子供でした。両親から本を読むようにと耳にタコができるほど言われましたが、どうにもダメでした。

両親は、兄と私に「少年少女新世界文学全集」全38巻を買ってくれました。一か月に一冊ずつ届いて、全部読めば子供が読むべき名作がほとんど網羅できるようになっていました。赤と青の市松模様の表紙にピカピカの金色の丸いシールが貼ってある美しい本で、私はシールを剥がして持ち歩き友達に自慢したりしていました。しかし、内容に関してはやはり興味がわきませんでした。兄が本を読むことを両親が喜んでいたので、私は、本に興味を持たないことに劣等感を感じながら子ども時代をすごし、「少年少女新世界文学全集」は、いつかページを開かなければいけない大きな宿題として私の心に引っかかっていました。

2. 私のもとへ

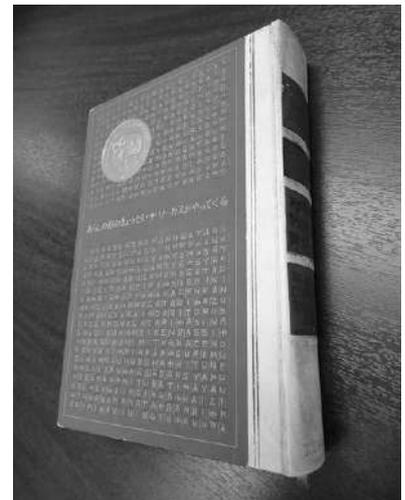
その後、兄と私はそれぞれに家庭を持って家を離れ、数十年の月日が流れました。昨年父が亡くなり、母がかつての家を引き払って都内のマンションに引っ越すことになりました。不要になった本や家具を処分することになり、兄と三人で片づけをしていたところ、本棚の隅の隅に、懐かしい「少年少女新世界文学全集」が埃をかぶっているのが見つかりました。母も兄も私も、この本を捨てるのは惜しい、という考えで一致し、私は引き取ることを申し出ました。

そんな経緯で、この全集は私の家にやってきました。古い本ですが、たくさん並ぶと立派です。全38

巻のうち、数冊が失われており、金色のシールは半分の本にしか残っていません。あらためて見ると、シールには、本毎に内容に合わせて異なる絵がレリーフで描かれています。私ははやる気持ちを抑えながらの第1巻を手に取り、ページを開きました。第一巻の第一話はギリシャ神話です。読み始めたところ、なんとおもしろいのでしょうか！この全集は宝の山であると思いました。

目次のコピーを貼りますので、全38巻に納められた物語を見てやってください。「ギリシャ神話」で始まり、「ロビンソン漂流記」、「ガリバー旅行記」、「ロビン＝フッドの冒険」、と、ワクワクする物語が続きます。途中には、エドカー アラン ポーの「こがね虫」もあります。アニメーションでこの後に有名になった「ムーミン」の原作もあります。最後の方の巻は日本の作品です。

目次には示されていませんが、各巻の最後には、それぞれの物語の「風土紀」が書かれています。ここでの「風土紀」は、例えば物語がイギリスのロンドンを舞台にしたものであればロンドンの紹介、といったように、土地についての紹介で、写真付きです。当時の編集者は、日本の将来を担う子供達に必



少年新世界文学全集 全38巻

1 世古 傑作 ギリシア神話・イ リアス・オデュッセ イア・聖書物語	14 ドイツ 古典(1) グリム童話・空 想男爵の冒険・マ ンツェルマヤの 冒険ほか	27 北 現代 長靴下のピッチ ャン・ムーミン家 のトロール家
2 イギリス 古典(1) ロビンソン漂流記 ガリバー旅行記 の冒険	15 ドイツ 古典(2) 愛の一家 アルプスの少女 七つの山のかなた	28 南 古典 ドン=キホーテ・ビ ノッキオ・さよう ならゴルディーフ
3 イギリス 古典(2) 宝島・シェークス ピア名作集・ふし ぎの国のアリス	16 ドイツ 古典(3) バクン ン人ビ ン 悪童物語ほか	29 南 現代 クスメラダ号の冒 険ほか
4 イギリス 古典(3) フランダースのい ぬ・ジャングル ブックほか	17 ドイツ 現代 飛ぶ教室・67 番地の子どもたち おじいさんとぼく	30 東 現代 パール街の少年た ち・りゅうの鳥ほか
5 イギリス 古典(4) ピーター=ラビン 黒馬物語 黒羊王	18 フランス 古典(1) 家なき子 十五少年漂流記	31 西 現代 荒野の二少年 荒くま
6 イギリス 現代(1) あらしの島の少女 サーカスきたる デ=ラ=メア短編	19 フランス 古典(2) あゝ無情 三月の物語ほか	32 アフリカ アラビアン=ナイ ト=王物語・ア ジア民話ほか
7 イギリス 現代(2) 燃えるタンカー ガブラスのくつ エベレスト征服	20 フランス 古典(3) 海底二万里 愛の妖精 ファブル昆虫記	33 中 古典(1) 西遊記・神話志異 中国民話・中国少 数民族民話ほか
8 アメリカ 古典(1) トムおじの小屋 トム=ソーヤの 冒険・こがね虫	21 フランス 現代 シミトラの孤児 ばらいろ島の少年 たち・グリシュカ とクマ	34 中 古典(2) 三日月 水滸
9 アメリカ 古典(2) 小公公子 若草物語	22 ソビエト 古典 隊長プーリバ・コ ーカサスのとりこ ロシア民話ほか	35 中 現代 故郷・藤野先生 さいごのいこい 大林と小林ほか
10 アメリカ 古典(3) 王子とこきば 白き小公女	23 ソビエト 現代(1) 黒友情 白歯の 帆船花	36 日 古典(1) 古事記・今昔物語 平家物語 日本民話
11 アメリカ 古典(4) 赤毛のアン 子じか物語・オブ ジのまほう使	24 ソビエト 現代(2) アルタイ物語 ピーチャとゆかい ななかせほか	37 日 古典(2) 太平記・雨月物語 大団栗毛
12 アメリカ 現代(1) ドリトル先生物語 あしながおじさん 名犬ラッシー	25 ソビエト 現代(3) 川のともし火・ク ロシンの冒険・星 の世界的パイロプ	38 日 現代 海鷗外・夏目漱石 小泉八雲・島崎藤 村・小川未明ほか
13 アメリカ 現代(2) アンデスの秘 風の子 リンカーン	26 北 古典 アンデルセン童話 集・ニルスのふし ぎな旅ほか	♣ ♣ ♣

要な知識を与えようと、子供達の好奇心をそそるよ
うに工夫を凝らしてこの本を作ったのだと思います。

3. 私の読み方

私は、一つの物語を読み終えて次の物語に移る際、
まず、スマートフォンで作品の背景を調べます。有
名な作品なので、ウィキペディアにまとめてあり5
分もかかりません。物語の背景を調べると、作者が
その作品を書いた年齢が私の現在の年齢よりも若か
ったりします。また、「身内を亡くした直後に書いた」
とか「会社を辞めてから書いた」とか、そんな時の
感情がなんとなく想像できたりします。大人が読む
からこそできることだと思います。作品の背景を知
った上で、物語本体に入り込んでじっくり読みます。

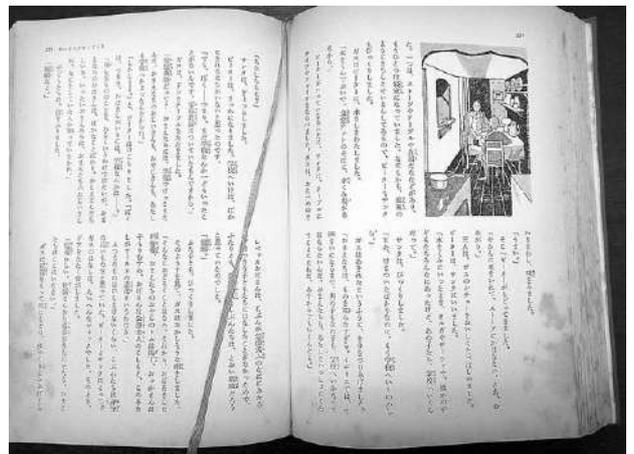
物語本体を読み終えて余韻に浸った後、巻末の「風
土紀」を読みます。この「風土紀」が、今から40年

前にかかれたものですので、読み物として非常
に興味深いのです。例えば、「新しいロンドンの
オフィス街」という紹介のもと、40年前の高層
ビルの写真が載っています。現在のロンドン
は、ビルの周りはみんなビルで埋まっていますが、
40年前の高層ビルはたった一つだけで、周り
には空が広がっています。また「ロンドン市内に
あるリージェント公園」という紹介のもと、40
年前に流行した服を着たロンドン市民が公園で
たむろしている写真が、その時代の最新の情報
として載っています。現代に書かれたものと錯
覚してしまうので、巧妙なジョークのようです。

4. 未来へ

私は、多くの人を知っている名作を読まずに
大人になりました。高校生の頃に読書の面白さ
を知り、これまでに、現代の作品は興味の向く
ままに読んでいました。しかし大きな欠落部分
があるわけで、この本のおかげでその穴埋めを
できると思い、ほっと胸をなでおろしています。

「少年少女新世界文学全集」が私のもとへや
ってきて以降、これまで寝て過ごしていた通勤
時間は、読書の時間になりました。大きな本
なので、邪魔なうえ重たいですが、続きが気にな
って持ち歩かずにいられないのです。毎日、電車
に乗るのが待ち遠しくなりません。電車の中で、
ニヤニヤしたり、ヒヤヒヤしたり、泣いたり、怒っ
たりして、感動の通勤時間を過ごしています。現在、
第10巻まで読み終わりました。第11巻以降は、私にと
っては未知の世界です。



市場ノススメ

池田俊彦 (PA会)

市場。ビジネスの世界に身を置く方の多くは、この語を「シジョウ」と発音するのかもしれませんが。そして、本稿について、ビジネスの話か?と思われる方もおられるかもしれません。

しかし、本稿では「市場」を「シジョウ」ではなく、「いちば」と発音してください。「市場」を「いちば」と発音したとたん、そこには活気にあふれた魚屋、八百屋その他諸々の商店、食堂が軒を連ねる風景が広がってきます。

東京であれば築地やアメ横のような街が浮かんでくるでしょう、それだけでもワクワクしてくるところですが、ここに「旅先」というパラメータが加わると、自分の日常とは異なる、その街独自の日常の姿が見えてきます。

本稿では、旅先で立ち寄った市場やスーパーでの経験をピックアップしたいと思います。なお、あくまでも訪問当時の話ですのでご注意ください。

◆市場散策のはじまり

札幌で学生生活をしていた時代にさかのぼります。当時、私はキャンプをしながら自家用車で道内を廻る旅行をよくしていました。

道東地区の中核都市、北見市内のスーパーに夕食用の食材調達のために訪れました。その店内で今川焼の型で焼いたお好み焼きのようなスナックを焼きながら売っていたオバチャンが声をかけてきました。

「今、札幌で大人気なのよー」

私の生活圏内では、そのようなものは見たこともありません。オバチャンには、私が札幌在住であることは告げず、

「へー、札幌で売れてるんだ…じゃ、1個。」

きっとオバチャンは毎日そうやって売っているのでしょう。旅先で遭遇する「日常」のオモシロサを感じた瞬間でした。

◆クイーンズタウン編

ニュージーランド南島のリゾートの街、クイーンズタウン。徒歩でも10分程度で一周できるクイーンズタウンモール周辺の店舗の多くは観光客相手のものであり、在住者の生活のための店舗といえば、スーパー、酒屋、肉屋、八百屋が数えるほどだったように思われます。

酒屋を覗いてみると、日本酒コーナーが見当たらない点（よく探すと大手酒造メーカーの紙パック入り日本酒が見つかりました）を除けば日本の酒屋とあまり差は無いようにも見えました。ところが、店の中ほどにビールサーバーが置かれており、「量り売り」がされていました。自分で持ち込んだペットボトル（空のボトルも売っています）に、サーバーから自分でビールを充填し、レジで料金を支払うシステムでした。折角なので、2リットル購入し、宿で飲みました。

ちなみにニュージーランドでは日曜日の酒類の販売は禁止されているようで、酒屋は当然休業、スーパーの酒類売場も閉鎖となっていました。手元にストックがない場合、酒類提供のライセンスを持ったレストランが唯一、酒類が飲める場所となります。

◆バガン編

ミャンマーを訪れたのは、ミャンマー政府が観光による外貨獲得政策を打ち出した1996年でした。古都バガンも観光地とはいえ、観光客をサポートするインフラや、生活物資はまだ十分に地方には行き届かない状態だったように思われます。市場というには小規模な、広場に面して数件の商店が軒を並べた中の土産物屋に立ち寄った時のことです。気になった商品を手に取りつつも元に戻す私や家内の姿を見て、店主が売り込みに寄ってきました。価格交渉の結果次第では買ってもよいかな、と思っていたところ、店主は、私の胸ポケットのボールペンを指差し、

「そのボールペンとこれ（私たちが手に取っていた商品）を交換しないか？いや、更にこれ（別の手に取っていた商品）も付けるので、そのボールペンと交換してほしい。」

よく聞くと、バガンではボールペンは手に入らないものだったようです。そして蛍光ペンに至っては、見たこともないものだったようです。

「これだったら、娘が学校で自慢できるよ。」

日本を出発するとき、ペンケースの中に入っていた使いかけのボールペン（黒数本、赤、青、緑、オレンジ）と蛍光ペンは、黒1本を残してバガン特産の漆塗りトレイ数枚と金色のフクロウの置物（縁起物らしい）となって成田に戻りました。

◆ヤンゴン編

ボージュアウンサンマーケット、おそらくミャンマー国内で最大の市場。倉庫のような大きな建屋の中に、個々の店舗の建物が設置されており、雨天でも濡れることなく食料品、衣類、雑貨などの買物をすることができます。しかし、私が訪れた時は、スクールと共に停電となり、買い物をするには暗すぎる状態となってしまいました。そのような停電は、きっといつものことなのでしょう。店員たちは、あわてる様子もなくお茶の支度をして休憩時間にあてていました。南国特有のゆったりとした時の流れを感じた瞬間でした。

◆バンコク編

バンコクと一言と言っても色々な市場がありますが、スカイトレインの乗換えの合間にサイアム地区のスーパーに足を踏み入れました。バンコク市民のための店舗のはずですが、そこは東京の輸入食材店を彷彿とさせる、ちょっとしたお土産の宝庫でした（個人の趣味・嗜好にもよります）。

ドライフルーツ、インスタントのタイ料理や調味料、スナック菓子など、選択肢は多様です。「バンコク市民の日常」を支える価格ですので、どれをとってもお手頃でした。ただし、パッケージには原則としてタイ語しか記載されていないので、調理法については度胸とセンスの勝負となります。

◆セントポール／ミネアポリス編

この十数年、このミネソタ州の街を出張で何度か訪問していますが、生鮮食料品を取り扱うスーパーを発見したのは、実は最近のこととなります。それ以前に発見したいくつかのスーパーでは、若干の乳製品、ソフトドリンク、パンを除くと、シリアルやチョコバー、ポテトチップやポップコーンといったスナック菓子など比較的長期の保存が可能な加工食品や冷凍食品ばかり扱っており、野菜、果物、肉類、デリカといった生ものは扱っていませんでした。ミネソタの人達は家庭で料理はしないのだろうか、効率・合理性を追求すると生ものは排除されるのだろうか…などと、考えていましたが、考えすぎでした。

◆オースチン編

乗換えを含めると自宅から約21時間、成田から約16時間の移動の末にたどり着いたテキサス州オースチンでは、生鮮食料品も扱うスーパーが、ホテルの向かい側のショッピングモール内にありました。機内で食べるだけだった身にはレストランでのディナーは重すぎるので、スーパーのデリカでサラダとサンドイッチでも調達して済まそうと思ったのですが…アメリカはスケールが違いました。そのスーパーにあった最も小さなパックのサラダは、日本のコンビニのサラダと比較すると5～6倍はあるものでした。オースチンの方々は、あれを一人で食べるのでしょうか。ラーメン〇郎のような大盛り、激盛り料理も嫌いではありませんが、彼の国はデフォルトが激盛りのようです…。

◆まとめ

ここに挙げた街以外の街でも、市場に行けば、ガイドブックには出ていない、自分の日常とは異なるその街や国独特の「日常」が見えてきます。皆さんも市場散策をして小さいながらも、生の異文化を楽しんでみてはいかがでしょうか。

◇蛇足

旅先では使い捨ての皿や割り箸などは入手できないこともありますので、アウトドア用の食器、フォークとスプーンのセット、アーミーナイフを持っていくとさらに楽しめますよ。

無名会90周年ベトナム研修の ワタシ的楽しみ方

中 村 希 望 (無名会)

無名会が設立されてから90周年にあたる本年を記念して、9月22日(木)～25日(日)の4日間、ベトナムに研修旅行を行うことになり、私も参加させていただきました。詳しい旅行記を、参加した無名会の若手5人で手分けして作成し無名会誌に載せていますので、興味のある方は是非そちらもご覧ください。

こちらにはお堅い話は抜きにして、以前耳にして私が個人的にベトナムでやってみたいと思っていたこと4つにターゲットを絞ってご報告したいと思います。

1. オーダーメイドドレス

ベトナムではアオザイのオーダーメイドが有名ですが、せっかくアオザイを作っても日本では着るところもないので無駄に終わってしまいます。ところがオーダーメイド文化の息づくベトナムではブラウスやジャケット、ワンピースなど、日常に着られそうなものでも作ってくれます。しかもシルクブラウスなどは5000円程度と、驚くほどリーズナブルで作れてしまうのです。

早いところは半日で、通常は2～3日で作成してくれて、ショップによってはホテルに届けたりしてくれるところもあるようです。さっそく着いたその日に意気込んでシルクショップへ行きましたが、ベトナムの地図のいい加減さと、すぐに店が移転するというベトナム人の商売気質のために、お目当てのショップを見つけられずに結局オーダーメイドすることはかないませんでした。

その後も別のシルクショップに寄ってみますが、生地がイマイチであったり、基本のデザインが古めかしかったり・・・と、やはり納得のいくものを見つけるにはもう少し時間が必要でした。しかし、

体に合うシックなデザインワンピースをセール品で見つけオーダーメイドはできなくとも大満足でした。

ちなみにドレスではありませんが、イパニマというハノイ初の世界的ブランドを御存じでしょうか。日本でもセレクトショップなどで売っているようですが、とても個性的でおしゃれなバッグです。ハノイに本店や姉妹店がありますので、是非寄ってみてください。日本の半額以下で買うことができます。お勧めです。

2. マニキュア

日本でネイルアートをすると1万円程度しますが、ベトナムでは安いところは何と400円程度で楽しむことができます。日本のようなアーティスティックな美しい仕上がりは期待できませんが、フレンチネイル(爪の先が別の色になっている)に挑戦してみました。自分で色が選べるかと思いきやなぜかお任せになってしまったようで、すごく落ち着いた仕上がりになってしまいましたが、甘皮処理などもしてくれてこの値段はびっくりです。ペディキュアをしてもらいましたが、普段窮屈な靴で死んでいる私の足小指の小さい爪でも、甘皮をきちんと処理すると美しく蘇るのだなあ～と感心させられました。

3. フランスパン

ベトナムはフランス領だったので、パンがとてもおいしいです。フランスパンが特においしく、毎朝食が楽しみでした。ベトナム航空の機内食のパンでさえ、美味しかったです。

街中でも、おばちゃんが竹製の籠にパンを詰めて頭に載せて道端で売っていました。しかもそのようなパンですら、とってもおいしそうなのです。日本のその辺のパン屋よりもおいしそうでした。一体、

このおばちゃんはこのパンをこんなにいっぱい、どこで焼いたのだろう・・・と興味がわきました。ただ、排気ガスがムンムンしたところで売っていますので、たとえ美味しそうでも、そういうのは買わない方がいいと思います。

フランスパンのバゲットにレバー・パテを塗って、その中に漬け野菜やハムなどを挟んで食べる「バイン・ミー・ティット」(略してバイン・ミー) というサンドイッチにチャレンジしてみたかったのですが、今回の旅行は全食事つきだったので、ちょっとそこまでチャレンジすることはできませんでした。次回ベンジしたいと思います。

4. ベトナムコーヒー

ベトナムコーヒーのポピュラーな飲み方はコンデンスミルクと混ぜて飲むスタイルです。写真に示すように湯を張った容器にコーヒーカップが入って出てきます(たまたま私が飲んだカフェのスタイルがそうだったのかもしれませんが)。



コーヒー自体は深入りでとても苦いので、下に沈澱しているコンデンスミルクをスプーンで混ぜて飲みます。そのため、ドロドロしていて酸味と甘みとコクがあり、日本で売られているコーヒーにはない独特の味でした。コーヒー豆自体はとても安く、1kgで1500円くらいでした。

ちなみにこのコーヒーの入れ方ですが、紙のフィルターではなく、金属製のフィルターを組み合わせたもので入れます。空港などでもセットで売ってい

ますのでお土産にいかがでしょうか。



ハノイのお花屋さん

～まとめ～

正直ハノイにはあまり期待していなかったのですが、エステやショッピングなど、安価で楽しめて、なかなかおもしろいところだと思いました。ホーチミンはハノイよりも物の種類が豊富になるようですので、機会があったらホーチミンにも行ってみたいと思います。現在のベトナムは戦後復興期から高度経済成長期へ入ろうとしているとのことですが、あと10年後、ベトナムはどのような成長を遂げているのでしょうか。街並みを見る限りでは建設ラッシュというわけではなく、また少し前の上海のような莫大なエネルギーも感じられず、大きく変わるような気配はまだ感じませんでしたが、日本人と似た気質を持つベトナムも、大きく高度成長を遂げる時がきっと来ることでしょう。是非、皆さんもその変遷をみるためにも、近々ベトナムに足を運んでみるのはいかがでしょうか。

無名会ベトナム研修旅行

久松 洋輔（無名会）

1. はじめに

日曜の朝にベトナムから帰国しました。帰国したのが休日の朝ということも手伝ってか、東京駅の駅前はたいへん静かでした。バイクの波に溢れていたハノイ駅前の朝とは大違いで、たった3日しかハノイにいなかったのにも係らず、ひどく違和感を覚えました。

今回の研修旅行は、無名会の90周年記念行事の一環とのことで、そのような機会にめぐり合えたことに、非常に幸福と思います。また、今回の旅行では、30代以下の会員は、旅行費の半額が無名会から補助されることとなっており、私もその補助を受けたうちの一人です。この場を借りて、勉強の機会を与えて下さいました先輩の先生方に厚く御礼を申し上げます。

2. 特許事務所、知的財産局訪問

今回の旅行は、現地の特許事務所と、知的財産局（National Office of Intellectual Property of Vietnam, NOIP）とを訪問することが一大イベントでした。

特許事務所は、INVENCOを訪問しました。INVENCOは、ハノイを主要な拠点とするとともに、経済の中心であるホーチミン、主要港湾都市であるベトナム北部のハイフォン市にもランチを置いている、ベトナムの中では規模のたいへん大きな事務所です。また、ベトナムで一年間に出願された特許のうち、およそ3分の1をINVENCOで代理しているそうです。

当日は、まず、ハノイの街中にある事務所の建物を少し見学させて頂きました。事務所は、あくまで日本人の感覚ですが、ビジネス街というよりは下町に近い感じの場所にあり、こちらが見学に行った様子を近所の方々が不思議そうに眺めていました。

続いて、Le Xuan Thao所長をはじめとする所員の方々が説明会を開いて下さいました。説明会では、竜眼（ライチに似た果物。ちょうど九月が旬だそうです。）を頬張りながら、ベトナムにおける出願の状況、一般的な審査の傾向、商標出願、地理的表示の保護、依頼時におけるコンプライアンスの問題など、多くの議論を交わすことができました。

また、我々が訪問するということで、先進国から派遣されてベトナムの知財のために働いている弁護士の方々も説明会に参加下さっていました。その中には、JICAを通じて日本からいらしていた弁護士の先生もいらっしゃいました。

INVENCOの方々と昼食を共に頂いた後、午後からはベトナムの知的財産局（NOIP）を訪問しました。

知的財産局はベトナムの官庁街（フランス統治時代の建物が多く、街並みが非常に綺麗）とは大分離れた場所にあり、周囲の環境は日本の特許庁と大分違っていました。特許庁が、霞ヶ関でなく、日暮里をさらにほこりっぽくしたところにある、といえは伝わるでしょうか？

知的財産局では、前局長であるTran Viet Hung氏をはじめとする知的財産局の職員の方々が、説明、議論だけで2時間と、非常に多くの時間を我々の勉強のために時間を下さいました。

具体的には、ベトナムにおける特許の出願状況や審査の進め方、著名な商標の類似範囲の解釈などについて話を伺うことができました。

ベトナムにおける特許出願は、2010年において、国内企業が306件であるのに対し、外国企業による出願は3276件と、大きな開きがあります。国内企業は、特許等を取得した場合の活用法を十分に認識できていないため、まだまだ出願に消極的な面がある、とのことでした。



また、今後のベトナム企業の技術的発展や法制度との関係についても議論することができました。例えば、ベトナムにおいて中国と同様にライセンスによる特許保証が求められている点と外国企業からの技術移転とについて、活発な議論が展開されました。

ベトナムは、それまで民法典と知的財産についての政令（デクレ）で保護していたのを、2005年に知的財産法を制定し、より国内の産業を育てることを意識的に行っているようで、今回もその意気込みを非常に感じました。今回の研修旅行に参加された先輩の先生方からは、「ベトナムは戦争が終わってから30年経ち、日本が経済の成長時期に入っていくころに一部似た雰囲気がある」との声も聞かれ、その当時は知らない自分としては、大変刺激を受けました。

3. ハノイにおける散策の注意事項

以上のとおり、特許事務所、およびNOIP訪問も行ってきたわけですが、そのほかには、当然ながらハノイ市内を観光したりもしました。そこで、その観光についても書きたいと思うのですが、観光名所について書いてもあまり面白くないと熟考した結果、ガイドブックと食い違いがあったもの、若しくは当たり前ではあるが、自分が注意しておけばよかったなあ、と思った以下の2点について書かせて頂こうと思います。

なお、以下の記載はベトナムに何度も足を運ばれている方には当たり前のことかと思えます。主に、ベトナムに興味を持っているけど行った事ないという方を対象としておりますので、この点、ご容赦下さい。

現金（ベトナムドン）

当然ながら、必須の携行物です。

しかしながら、なぜこのようなことをいちいち書くかという、多くのガイドブックには「ハノイ、ホーチミンなどではベトナムドン（VDN）と共にUSドルも広く使用することが出来る」と記載されているにも係らず、使用できないことがかなり多くあったためです。

実際のところ、USドルが使用できるのはガイドブックに載っているような旅行者向けの店の話（これもガイドブックの策略か？）で、私のような無鉄砲者が好んだ下町地域（主にハノイ駅の東、南西地域）では、ほとんど使用することができませんでした。使用できたのは、1軒のカフェのみです。そのカフェでさえも、「私はUSドルしか持っていない」と伝えたにも係らず（これがそもそも伝わっていなかったか？案外、英語も通じません）、いざ会計のときになって非常に困った顔をされました。結局、中から店の責任者らしき人物が呼ばれ、その人物に頼み込んで何とかUSドルで許してもらった次第です。訪れたのがハノイ初日でしかも時刻が夜の9時頃であったため、たったミルクコーヒー一杯にも係らず、かなり不安になりました（周りは日本人どころか外国人も一人もいないし）。

確かにVDNは日本円には両替し難く、両替し過ぎたときのことも考えるとちょっと二の足を踏むかもしれないませんが、少し両替すれば物価のことを考えると十分に楽しむことができるので、散策のためにはVDNもきっちり携行されることをお勧めします。

あまり大事でない靴

旅行に行くには、スニーカーなどの歩きやすい靴が推奨されています。ですが、荷物を減らしたいときに、一番嵩張るのが靴です。今回は、特許事務所やNOIP訪問があるため、スニーカーのみというわけには行きませんでした。

そんなわけで、持って行く荷物を減らしたかった私は、カジュアルな括弧のときでもそれなりに見える（と自分では思った）革靴のみで行くことにしました。

しかし、やはりその考えは間違いだったようで、今後行かれる方は、「スニーカー等を別に持っていく、持っていかないなら、あまり大事でない靴にする」という点に是非ご注意ください。

革靴のみを履いていった場合、まず、靴磨き屋を追い払わなくてはならないという問題があります。ハノイの観光名所の1つとして旧市街が挙げられていますが、この旧市街には多くの靴磨き屋が出没します。かなりの“ぼったくり”が混じっているようで、事前に交渉しないと後で法外な値段を請求されるそうです。また、うっかり靴を脱いだりすると、そのまま靴を盗んでどこかに立ち去ってしまうこともあるとのことでした。

そんなの、無視すればよいじゃないかということで、私も無視を決め込んだのですが、日本と違い、彼らは道に座り込むのではなく、路上を徘徊しています。そして、革靴を履いている人を見つけるとしつこく勧誘してくるのです。何度も声をかけられるので、非常に面倒臭いと感じました。

2つ目は、歩道の整備状態の問題です。今回、外国人が多く居住する地域には行っていないのでそこらはどうか知りませんが、ハノイの街中は、歩道の状態が非常に悪いです。

ハノイの街中は、やたら小規模の工事が行われていますので、その影響かもしれません。

例えば、ハノイ駅の東側地区を散策したのですが、歩道はきっちりと舗装されており、元は意外としっかりと作られているような気がするのですが、なぜかその一部が中途半端な舗装状態になっています（崩れていたりもします）。写真を撮ったところは、両サイドを歩くことができるのでまだましなほうで



すが、通常、歩道の車道側はバイクの駐輪スペースとなっています。また、車道とは反対側の奥の平らな部分では、高さ30cmほどの小さな椅子とテーブルが置かれ、露天の店（フォーなどが売られている。かなり美味。しかも約100円。）があちこちにオープンしています。したがって、歩くときは自然とバイクと座っている人との間を通ることとなりますですが、通常、テーブルがぐらつくところに露天の店を開いたりはしないので、どうしても舗装状態が悪い部分を避けて通ることはできません。

よって、自分の履いていった靴（革靴）は、つま先がぼろぼろになってしまいました。

皆様が私の二の舞とならないことを切に祈ります。

4. まとめ

以上、思いつくままに書かせて頂きましたが、これでは書き足らぬほど思い出があり、事実、ここに至るまで何度も文章を書き直しました。あまりに散漫になるため、(これでも)書くことを厳選した次第です。

今回の旅行で最も感じたことは、ベトナムは、若い方がとても多いということです。NOIPにて我々を対応して下さった職員の方々の中にも20代と思いき方々が含まれていましたし、また、街中ではブライダルショップがあちこちに見受けられて大変繁盛していました(花婿、花嫁にもたくさん出会いました)。

彼らは今後、ベトナムの発展にさらに貢献していくと思われま。私も、今回の旅行で彼らから分けてもらった、発展途上であることのエネルギーを糧に努力していきたいと思ひます。

3.11 震災

平川 明（無名会）

私は、茨城県ひたちなか市から東京都中央区の事務所まで距離で約110km、ドアツードア2時間の通勤をしております。3月11日の震災では、被災者ということになりました。体験談を報告いたします。

1. 被災時

3月11日、東京在住の皆様と同様、事務所で被災しました。揺れは、危険を感じるものとは思えなかったですが、室内はかなり混乱しました。

通勤距離が長いので、帰宅は最初から諦め、家族と連絡を取ることに専念しました。携帯電話のメールで、まず、長女と連絡つきました。長女は、仙台在住ですが、幸い当日は、韓国旅行からの帰り、震災時は成田到着直後で、ある意味幸運でした。次に、妻と連絡が取れ、屋根の瓦が相当落下したが、家族は無事であることが分かりました。

この日の夜は、事務所泊まりでした。まだ、コンビニエンスストアの食料が十分にあったので、大量の酒とつまみを購入し、残った人たちと宴会になりました。

たぶん、所員の7割くらいが帰宅し、3割くらいが残っていたと記憶しています。徐々に、インターネットや携帯等を通じて、東北地方を震源とする、かなり規模の大きい地震であること、津波の被害が大きいことが伝わってきました。

2. 震災一週間後

震災一週間は、茨城県中央部以北への交通機関はストップしたままで、帰宅手段は、タクシーくらいしかなかったと思います。自転車で80km以上かけて移動した人もいたようです。一週間たった頃に、高速道路が復旧し、高速バスが利用可能になりました。3月20日前に震災後初めて帰宅できました。高速道路は、かなり凹凸があり、結構揺れました。インターチェンジを降りて、市内に入ってくると、私自身の故郷ではないのですが、妙に懐かしさを感じてしまいました。

妻からの携帯メールで、震災3日目に停電から復旧したが、水道は断水のため、給水車から水をもら

っていること、最初の数日は5時間並ばないと水がもらえなかったこと、隣接する水戸市まで行くと断水はないので水の入手は可能であるが、ガソリンを入手できないため移動が簡単でないことが分かっていました。したがって、東京にいる私の方が相当快適な生活といえました。

折角帰宅するのだから、せめて、食料品、飲料水だけでも持ち帰ってあげたいと考え、高速バスの出る東京駅に近いデパートの地下で大量の食料品、飲料水を購入しました。そのため、事務所近くで、大きなスーツケースを購入し、運搬に万全の準備をしました。妻や子供たちからも、ほしいもののリクエストを受けていました。この頃、茨城のスーパーでは、大勢の買い物客が押し寄せ、時間で区切った入場制限、品数制限などを行って、商品が販売されていたようです。帰宅できて、家族と一緒に食事ができる幸せを感じました。

帰宅すると、水のくみ出しがたいへんでした。飲料水は、家族5人で1日5-10Lあれば十分です。ただ、水洗トイレの水を確保する必要がありました。水洗トイレの水は、近隣のお墓で、お墓参り用の井戸水を分けてもらっていました。キャンプ用のポリタンクで、自転車を使って一日10往復くらいして、毎日お風呂に水を張り、トイレを流すときに、タンクに水を入れて流しました。

3. 電気温水器

震災後2週間くらい断水して、待望の水道が復旧しました。しかし、水道が復旧すると、電気温水器から水が漏れ出しました。漏れ出した水は、電気温水器の制御基板の周囲に迫り、かなり危険を感じました。電気温水器は、関西のX社の製品でした。そこで、インターネットで修理受付を探し、修理を依頼したところ、翌日には、修理のサービスマン2名に来てもらえました。方言が気になったので、聞いてみると、それぞれ佐賀と広島から来ているとのことでした。東日本では人手が足りず、西日本のサービスマンを集めて派遣している、とのことでした。

ガソリンがないので、タクシーで被災地の修理に回っているとのことでした。震災直後の心細い時期に、本当にありがたいと思いました。この会社の精神にふれることができ、勉強にもなりました。おそらく、私は、今後基本的には、X社製品を購入すると思います。

4. 卒業式

3番目の子供は、小学校6年であり、卒業の年でした。卒業式は、延び延びになり、3月23日に行われました。体育館は使用できず、先生方が、教室と廊下を合わせた会場を作ってください、なんとか開催できました。子供と親は教室、先生方は、廊下でした。放送で校長先生の祝辞をお聞きし、子供たちは、教室に分かれて、在校生との呼びかけを行い、校歌を歌いました。かなり、手作りの雰囲気での卒業式でしたが、たぶん、子供たちにはいい思い出になったと思えました。

その後、校庭で記念撮影をしましたが、当日は、北東の風が吹いて寒い日でした。茨城では、北東方向は、千島海流の流れて来る方向で、この方向の風はとても冷たいです。また、この方向には、福島原発があり、ちょうど、3月23日は、放射線量が小さなピークになっていました。



5. 瓦屋根

我が家は瓦屋根です。震災で、70枚くらい落下してしまいました。幸い、知人にとび職がいて、シートでの応急措置を東京からお願いすることができました。ただ、最初の応急措置は、震災後2日くらいの余震の中で仮止めの的にやってもらったので、耐久力がありませんでした。私が帰宅した後、再度、徹底的に補強しました。私は、趣味でフリークライミングをやっているのですが、自宅には古いロープが多数ありました。屋根に2m間隔くらいでロープを8本掛け、シートを抑えました。これで、5月中旬まで

持たせることができました。でも、梯子を伝わって屋根に上がる必要があり、とても怖かったです。



瓦の修理は、できれば梅雨までに完了したいと考えていました。しかし、まず、ハウスメーカーはほとんど頼りにはできませんでした。おそらく、広範囲の震災で、交換用の瓦と職人の確保ができなかったようです。また、近隣の瓦店に聞いてみましたが、修理待ちが300軒~600軒あり、どこの店も対応に1~3年待ってくれとの回答でした。

一方は、私には、上記のとび職の知り合いがいて、いつでも足場は組める、とのことでした。また、大阪の親戚に瓦店があり、瓦の型番を指定して手配してもらうことが可能でした。また、私の故郷は、瀬戸内ですが、瓦の製造が盛んで、瓦職人を探すことも可能でした。

そこで、5月連休中に足場を組んでもらい、5月連休明けに瓦が届くように発注し、5月中旬に四国から瓦職人来てもらい手配を行い、瓦屋根の修理は完了しました。余裕で梅雨前に元に戻りました。自宅付近では、9月末時点で屋根にブルーシートを貼った家が散見されます。今年は、強い台風が通過したため、早期に瓦修理ができてほっとしております。

6. まとめ

震災からあつという間に6ヶ月過ぎてしまいました。断水のときの水のくみ出し運搬はつらかったです。また、今年は皆様節電がたいへんでした。水道、あるいは電気といった普段は当然に手に入っているものが、突然得られなくなったときの大変さを身に染みて認識した次第です。それでも、ともかく、家族全員無事であったことが何よりです。



少年野球のコーチ

片岡 憲一郎（無名会）

1. コーチを始めたきっかけ

3年前の秋、野球をあまり見たこともやったこともなかった長男が、突然、「少年野球チームに入りたい！」と言い出し、地元の少年野球チームに入団することになりました。その半年後、今度は兄のまね好きな次女が「私も入る！」と言い出し・・・。「子供が2人も入団するなら、ちょっと手伝ってもらいたいな」なんていう誘いを断りきれず、私もコーチとして入団することになりました。コーチになると毎週末がチームのスケジュールで埋り、野球一色の生活になってしまうと聞いていたので、最初はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、いざ入団してみると、そこには楽しい少年野球ワールドが待っていたのでした。

2. コーチの仕事

毎週水曜日か木曜日ころ、インターネット上の掲示板に週末のチームスケジュールが掲示されます。コーチの仕事は、この掲示板を見てチームスケジュールを確認し、出欠を書き込むことから始まります。仕事で出席できないコーチが多いときはなるべく出席するようにし、逆に多くのコーチが出席しているときには所用を済ますために欠席するなど、周りの状況を見ながら各自出欠を調整します。疲れているときなどは、「たまに休みたいなあ」と思うときもありますが、参加してしまえば間違いなく出席してよかったと感じます。きっと、知らず知らずのうちに子供達から元気をもらっているからなのでしょう。

当日は、グラウンドの整備やネット張りなどの雑務、トスを上げたりノックを行うなどの練習メニューの補助がメインとなります。練習の日は試合の日よりも体を動かす機会が多いので、少しウェイトオーバー気味の私には、体を絞る絶好のチャンスです。し

かし、夏場にあまり無理をすると、子供達よりも先にコーチの側がひっくり返りそうになるので要注意です。

コーチの仕事として配車というのもあります。他のグラウンドに遠征するときなどには移動のための手段が必要となりますが、チームにはバスなどはありません。そこで、コーチの自家用車が配車として投入されます。わいわい騒ぐ泥だらけの子供たちを大勢乗せてのドライブは遠足バスのようで楽しいです。しかし、配車には中古車が必須です。敢えて理由は書きませんが・・・。

3. グラウンド

遊水地の一角をホームグラウンドにしています。少年野球のグラウンドは、ピッチャーマウンドからホームベースの距離が大人野球の18.44mに対して16m、ベース間が27.4mに対して23mと一回り小さくなっています。誰が何時決めたのかは知りませんが、この距離設定が絶妙です。速球ピッチャーとバッターの対決、俊足ランナーとキャッチャーの肩との対決などがスリリングに展開されます。ちなみに、ホームベースも、大人用43.2cm幅に対して38.1cm幅と少しだけ小さいものが使われます。

最近、商業施設や住宅地の増加で野球ができるような広い空き地が減る一方です。我がチームのグラウンドも他のチームと交代で使用しているので、グラウンドが確保できない日には他のグラウンドに遠征することになります。

大きな大会ではナイター施設があるような立派なグラウンドを使えることもあります。しかし、遠征先の多くは遊水地や小学校のグラウンドなどです。このようなグラウンドでは、ボールがジャングルジムの後ろに入るとエンタイトルツーベース、プールに入る

とボールデットなどローカルルールが設定されていますので、その確認が必須です。

4. 野球道具

私が子供のころ、広場で草野球をするときには表面に多数のディンプルがあるC球を使っていました。今の少年野球でもC球が使われていますが、表面にディンプルのない外面がより滑らかな新デザインのものとなっています。ちょっとかっこいいです。この新タイプのC球は、縫い目（ダミーですが）の高さが旧タイプのものより高くなっていて、より縫い目への指の引っ掛かりがよくなっているそうです。



木製、金属製のバットは知っていましたが、コーチになって初めてカーボン製があることを知りました。カーボンバットは、実際に振ってみるとなんだかすごく華奢な感じですが、軽くてよく飛ぶという理由で多く使われているようです。バットで一番驚いたのは複合バットの存在です。複合バットとは、複数の材質を組み合わせで構成されたバットの事です。例えば某社の複合バットは、金属バットをベースとし、その芯の部分をゴムで構成しています。ボールが当たったときにバットの側をへこませることでボールの変形を抑え、より飛距離を高めることができるらしいです。しかし、さわるとぶよぶよのゴムで芯の部分ができているなんて、なんだか反則技の感じがします。ちなみに中学生の大会では使用が禁止されています。

5. 試合

やはり、選手もコーチも一番の楽しみは試合です。応援に駆け付けた家族の方々を含めて皆が一団となって声を出し、大変盛り上がります。

試合中は、小学生といえども、複雑なパターンのサインが出され、システムチックな攻撃、守備が展開されます。油断するとこっちが解らなくなりそうな複雑なプレーもあります。そのため、サイン通りに動いて作戦が成功して皆に褒められたり、逆にサインを見落として監督に怒られたり、いろいろなことが起きます。また、試合に勝つと当然子供たちは大喜びですが、大事な試合に負けると涙する選手もいます。これらの経験はすべて子供たちにより経験になっていることは間違いありません。そして、試合を通して成長していく子供達を見てみると、コーチをやっていてよかったとつくづく思います。



6. おわりに

コーチをやるようになってから、子供達に元気をもらい、楽しい週末を過ごさせていただいています。しかし、最近では、子供たちに教えてばかりで少し欲求不満な面も感じています。子供たちがチームを卒部したら、また草野球チームに入って今度は自分で野球をやりたいと思っています。